

～新しい時代の創造に向けて～
むつ市50年のあゆみ



むつ市制施行50周年・合併5周年記念号

～ NEX T50 新しい時代の創造に向けて ～

『人と自然が輝く やすらぎと活力の大地 陸奥の国』へ



むつ市議会議長

村中 徹也



むつ市長

宮下 順一郎

むつ市となって半世紀、そして『新むつ市』となってから5周年を迎え、この大きな節目を市民のみなさまとともにお祝いできますことを感謝申し上げます。

むつ市の50年の歴史は、都市基盤の整備や生活環境の充実が進む一方で、十勝沖地震や度重なる水害など幾多の苦難を乗り越えてきた歴史でもあります。

また、この10年は、下北が一つとなる可能性を模索した歴史とも言えます。この激動の時代を担い、むつ市発展の礎となった先輩諸氏、市民みなさま方のご尽力に敬意を表したいと思います。

弊誌『むつ市50年のあゆみ』は、その時代その時代のむつ市を映し出しています。そして、その時々により一人ひとりの思いもあろうかと思えます。弊誌をご覧いただき、ご家族やご近所、職場内で、むつ市の歴史を話題に談笑いただければ幸いです。

市民のみなさまとの協働した、まちづくりは、私の基本理念の一つであります。歴史を刻み、歴史を支えた先達が作りあげた財産をさらに大きく確実に未来へと運ぶことが私達の使命でもあります。

むつ市の明るい未来へ夢と希望を託し、『むつ市』という大地にしっかりと根をはり、ともに、語り合い、汗を流し、新しい時代の創造へ邁進してまいりたいと考えております。みなさま方今後一層のご理解とご協力をお願いいたします。

市制施行50周年を市民のみなさまと共にお慶びいたしたいと存じます。

同時に、むつ市議会も50周年、第200回定例会の大節を迎えることができました。これまでむつ市議会を支えていただきました、むつ市民各位に感謝と御礼を申し上げます。

当市は、昭和34年9月1日に旧田名部町と大湊町が合併し、翌年8月1日に日本で初めてのひらがなの市『むつ市』としてスタートをいたしました。以後、平成の大合併を経て、面積863.79km²、人口は6万5千人を擁する下北の中核都市として発展をいたしております。

さて、地方自治制度は、明治地方自治制が成立した後、大正デモクラシーから戦前、戦後体制へと変容がなされ今日を迎えております。その変遷と共に地方議会も『民意の反映』へと基軸してまいりました。しかし地方議会の課題である『市民意識の動態』の洞察権と『二元代表制』の権限委譲はまだ解決されておりません。

このような問題点が存在する限り、我々むつ市議会は而今50年のむつ市発展のため『地方自治体の施策を作るのは誰か?』との問が曲解されることがないよう、むつ市議会第200回定例会冒頭挨拶で申し上げた『品格と気品』『誇りと自覚』をもって市民福祉向上に努めてまいりますので、むつ市民各位のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

激動と苦難の50年を踏み越えて

『主なできごと』を振り返って』

むつ市、そして、新むつ市誕生

むつ市は、昭和34年9月1日、人口2万5千530人の『田名部町』と人口1万5千799人の『大湊町』とが合併し、県内8番目の新市『大湊田名部市』として誕生しました。

『田名部町』は旧南部藩由来の町であり、一方『大湊町』は旧海軍の町として急速に進化した町であったため、両町間の町風、町民感情には大きな相違があり、合併への道のりは容易ではありませんでした。

しかし、時代の流れにより昭和28年10月、町村合併促進法が施行されると、全



全国初の〇〇がな市『むつ市』誕生

国で新たに35市が誕生。当地域においても『田名部町』『大湊町』の合併に対する機運は急激に高まりました。両町は、市名の名称、市庁舎の建設位置、赤字財政等々の難題を抱えながらも昭和34年9月1日ついに合併、『大湊田名部市』としてスタートし、初代市長には県議会議員であった杉山勝雄氏を選ばれました。

さらに、昭和35年8月1日には、全国初のひらがな市名『むつ市』と改称しました。

以後、平成7年の合併特例法改正後、政府による合併特例債を中心とした行財政面の支援と三位一体改革による地方交付税の削減などで、平成11年からいわゆる平成の大合併の気運が全国で高まり、むつ市も平成17年3月14日、川内町・大畑町・脇野沢村と合併し、新『むつ市』が誕生しました。

平成21年は、市の本庁舎移転が予定されており、市民のみならず、市民のみなさまが利用しやすいバリアフリー構造で、耐震化された防災拠点としてご利用いただくこととなります。また、市制

施行50周年・合併50周年の記念すべき年に当たり、先達が築き上げた実績を礎に、将来の50年後を見据えて、産・学・官・民が一体となった市政運営を目指しています。

前市長杉山肅氏 思い半ばの急逝

平成19年5月31日、市長急逝との知らせに市庁舎内に激震が走りました。

杉山前市長は、昭和60年10月、8代市長として就任以来、6期22年にわたり、むつ・下北をけん引するリーダー的な存在でした。

原子力船『むつ』との共存共栄を図り、新『むつ』とも言える海洋地球研究船『みらい』へと夢をつなぎ、海洋科学分野での国際的な研究拠点都市の構想図を描いていたさなかの出来事でした。

また、国内初の使用済燃料中間貯蔵施設の誘致、市本庁舎の旧大型商業施設への移転など、多くの政策に精力的に取り組んできましたが、その思いも半ばでの急逝でした。

杉山前市長のこの思いを受け継いだのが、宮下現市長です。中間貯蔵施設は平成24年の操業開始が見え始め、市本庁舎も移転となる建物の改修が今年8月には終え、新庁舎での業務開始も9月末が予



現宮下市長初登庁

定されています。また、市にとって、長年の最重要課題でもありました累積赤字も平成23年度での解消が見込まれています。

下北のむつ市から日本のむつ市へ

新しい希望に向け、昭和34年9月に新市としてスタートした当市でしたが、旧両町の残した大きな債務は、財政に厳しくのしかかり、昭和41年度までの7年にわたり、財政再建準用団体として懸命の努力を重ね、ようやく準用団体から脱却できたという状況でした。

合併初期の昭和35年当時、県では『下北開発計画』を、また当市でも新しい町づくりのため、10年後を目標に『新市基本計画』をつくり、『むつ製鉄』の誘致を柱にした『人口10万田園工業都市』の建設を目指しました。

しかし、昭和38年に下北の夢を託して登場した『むつ製鉄』は、鉄鋼業界の不況により挫折し、工業化による開発の夢は終わりを告げました。

このようなかで、昭和43年に下北半島は『下北半島国定公園』の指定を受け、観光地として新たなスタートを切りました。

『むつはまなすライン』が県道から国道279号に昇格、さらに『むつ』脇野沢、大間間も国道338号に昇格して完全舗装されるなど、少しずつ交通環境の整備が進められてきました。そして現在、住民の悲願である下北半島縦貫道路の建設が進行中であり、多くの分野で都市化の動きが具体化しつつあります。

むつ市は、誕生以来、都市の環境・基盤固めとして、観光施設、文化教育施設、医療施設、福祉施設などの整備を進める



日本夜景百選『夜のアゲハチヨウ』

昭和34年の新市スタートから特に力を入れたのが企業誘致でした。『人口10万田園工業都市』を目指し、工業化の柱にと大きな期待をもって最初に誘致を進めたのが『むつ製鉄』でした。結果的には鉄鋼業界の不況により昭和40年挫折、また農家の期待を担ったピート生産も、昭和42年六戸町にあったフジ製糖青森工場の突然の閉鎖とともに大きな打撃を受け破綻、開発の夢は政治不信を残したまま終わりを告げました。

企業誘致

ここに『人口10万田園工業都市』の構想は挫折、政府は政治不信解消のために、新たな観点から下北開発を再検討することとなり、『アツギむつナイロン(株)』が設立され昭和42年3月から操業を開始しました。これは多数の社員を地元採用し、雇

用の拡大、人口流出の歯止め、大きな効果がありました。『アツギむつナイロン(株)』は、現在『アツギ東北(株)むつ事業所』となっています。道路網が整備された昭和60年代から平成年代にかけて縫製工場『杉山(株)』(のちの(株)セアン)、電気機器部品メーカーの『(株)エイワ青森工場』、婦人服縫製メーカーの『アーバン大野ソーイング』、電気機器メーカーの『(株)むつ新鋭産業』、作業安全用品の『旬シヨシユール』、加工食品製造販売の『(株)ファーマーズ・キッチン』の6社が操業を開始しました。



企業誘致順調に…相次ぐ立地

その後日本の企業は、労働賃金が安く、用地取得が容易な東南アジアや中国など国外に進出するようになり、企業誘致を命題として努力を積み重ねてきた当市でしたが、交通の便、過酷な気象やコストなどから、企業から敬遠され、企業誘致は10数年間見るべき成果が上がりませんでした。現在は、『(株)エイワ青森工場』が『(株)エイワむつ倉庫』として、『(株)むつ新鋭産業』とともに事業を継続しています。

当市にとって喫緊の課題となっている『雇用の確保』については、平成20年10月に地域の各種団体や有識者等による『下北・むつ市経済産業会議』を立ち上げ、地元における人材育成とともに、企業誘致

においては市長自ら『トップセールス』をするなど、地元産業の基盤づくりとともに雇用確保対策に最善を尽くしていくこととされています。

主要道路網・航路の整備

むつ市発足当時、下北半島全市町村の共通の願いは、まず下北一周舗装道路の実現でした。国・県に対し、下北全市町村あげての陳情を繰り返し、少しずつ要望が実を結ぶようになっていきました。

昭和42年11月『むつはまなすライン』(野辺地〜大畑)が舗装完成。昭和44年11月には、県道『野辺地〜大間』間、全長102kmが全面舗装され、翌年昭和45年4月には主要地方道から、国道279号に昇格しました。その後、下北半島の海岸線に沿って工事を進めていた『海峡ライン』(大間〜脇野沢)川内が昭和53年10月開通したことにより、ようやく半島一周が可能となり、昭和56年には国道338号に昇格しました。

これらの国道は、昭和39年就航した『大間〜函館』間、平成3年12月就航の『大畑〜室蘭』間(平成10年〜休止)、昭和54年4月就航の『脇野沢〜蟹田』間フェリー、平成20年11月就航の『青森〜脇野沢〜佐井』間航路と併せ、当地域の観光・産業・経済の発展に寄与することとなりました。

さらに、地域発展に欠かせない『高速交通ネットワークへのアクセス』の整備をキーポイントに、平成4年6月、下北・上北の関係市町村、商工会、観光団体などで『下北半島縦貫道路建設促進期成同

盟会』を結成し、建設省(現国土交通省)、大蔵省(現財務省)ほか関係各方面へ積極的な働きかけを続けた結果、平成6年12月16日には、念願であった『地域高規格道路』が路線指定となり、むつ市から天間林村(現七戸町)までの約60kmが計画路線に指定されました。現在『有戸バイパス』6.3kmと『野辺地バイパス』6.9km合わせて13.2kmが供用開始しており、野辺地町から六ヶ所村までの延長6.3kmを『有戸バイパス』、むつ市内の延長9.2kmを『むつ南バイパス』、六ヶ所村から横浜町に至る延長5.8kmを『吹越バイパス』として整備を進めており、大間町までの路線延長を目指しています。

鉄道存続への闘い

道路とともに、下北の大動脈は、長年大湊線・大畑線の2つの鉄道でした。昭和43年9月、国鉄諮問委員会が赤字ローカル線を廃止勧告対象にした折、大湊線・大畑線が存亡の危機に立たされたことにより、同年同月、大湊・大畑線廃止反対期成同盟会を結成し、下北全域の住民はもとより、全県一体となって存続の運動を展開しました。

この時期、昭和43年5月に『十勝沖地震』、さらに昭和48年9月には集中豪雨に見舞われ、大湊線・大畑線とも線路が至るところで寸断されるなど、大変な被害を被りました。この事態に対し、『鉄道の存続を』と、市民総ぐるみの粘り強い運動を続け、何とか復旧・再開にこぎつけることができました。



62年の歴史に幕を閉じた大畑線

しかし、その後も当局の方針は変わることがなく、大湊線は存続されたものの、昭和60年7月に大畑線は民営化され、『下北交通大畑線』として再スタートしました。しかし、その大畑線も平成13年3月31日、ついに62年の歴史に幕を閉じました。

2年後、膨大な赤字を抱える『国鉄』も『JR』と改称して民営化されました。

東北新幹線は平成22年度的全線開業を目標に建設工事が進められていますが、大湊線からの新青森駅、八戸駅までのアクセスや野辺地駅での接続の利便性向上など、大湊線の利用者の安定的確保策等、新たな課題への対応も必要となっています。

災害・苦難と復旧の時代

むつ市は、昭和40年代から50年代初め

型の観光を提供できるまでになってきており、誘客の増加に期待がかかります。

観光客を迎える地元の体制についても、平成10年7月にはJR大湊駅の隣にJR東日本がホテル『フォルクロロ大湊』をオープンしたをはじめ、近年、市内では旅館・ホテルの新增改築が相次ぎ、宿泊受け入れ環境はかつてなく充実してきています。このような条件が整えられていくことにより、今後、市内に宿泊する観光客も増え地元商店街の経済活性化に大きな効果があるものと期待されています。

観光と密接な関係がある商工振興対策として、例年、地場産物を東京、仙台、名古屋、大阪、札幌など大都市でのイベントに持ち込みPRして販路拡大を図ったり、平成5年度には『むつ下北観光物産館』を、平成18年には『むつ来さまい館』を建設して下北圏域の観光物産の販売や、いろいろなイベントの企画等、観光振興のメイン基地として各種事業を進めています。

市は、農林水産物は地域の誇りとして、地域ブランド化による『むつ市のうまいは日本』推進プロジェクト事業を展開しており、市の基幹産業でありすべての産業の基幹ともなりうる第1次産業の拡充、『むつ市のうまいは日本』の第2ステージとなる販売強化の取り組みとして、『元氣むつ市応援隊』の結成や地産地消運動協力店の募集やインターネットの活用による『むつグルメ』の配信等を実施しています。

事業を推進するにあたって、商品やブランドに対する親しみや好感度を高める効果的なツールとして、イメージキャラクター



十勝沖地震で3階東側が崩落した市庁舎

にかけ、竜巻・地震・大雨・豪雪など相次ぐ大災害に見舞われ、苦難と復興の時代が長く続きました。

昭和43年5月16日、午前9時49分発生十勝沖地震(マグニチュード7.9、震度5)では、電気・電話が使用不能となったほか、大湊線、大畑線が不通、さらに、国道279号線、338号線が通行不能となり、むつ下北地方は陸の孤島と化しました。

死者1名、負傷者16名
住家全壊185戸、同半壊285戸、同一部損壊409戸、
非住家被害342棟

また、昭和48年9月24日の大雨では、降り始めからの雨量が東通村砂子又では、460mm、むつ市でも188mmに達し、市内の中小河川・田名部川も至るところで堤防が決壊し、市街地の広い範囲で床

ター『ムッシュ・ムチュラン1世』と、キャッチフレーズ『てっぺん下北味・趣・覧むつつ星』を制作、広く活用し、むつ・下北の地場産物を印象づけ、むつ・下北ブランドの認知度向上と総合イメージづくりを推進し、農林漁業を始めとした関連産業の収益性を高めていくこととしています。

学校・社会教育の充実

市は、『市の発展は第一に人材の育成から』との認識のもとに、まず『健全な身体と健全な心』を育むべき環境の整備に努めてきました。厳しい財政状況のもとで、昭和37・38年にむつ中学校と大平中学校を分離独立し新設(ともに木造校舎)さらに昭和46年の第一田名部小、城ヶ沢小(昭48)、第二田名部小(昭50)、大湊中(昭55)、関根小(昭56)、大平小(昭59)、田名部中(昭61)、若生小(昭61分離新設)、むつ中(平3)、大平中(平5)、近川中(平9)、大湊小(平11)など、次々と近代的な鉄筋校舎の新築あるいは木造校舎の鉄筋化に大きな力を注いできました。今後、21年度には関根小学校、大畑中学校および脇野沢中学校の耐震補強実施設計を行うほか、第一川内小学校は平成23年度の完成、第三田名部小学校は平成24年度の完成を目標として建設に着手することとしています。

また、むつ下北管内の教員の研修拠点として、平成4年には『むつ市教育研修センター』を設置し、教育相談活動の充実を図っています。

ソフトの面では、国際社会に対応した語学教育の充実を図るための『外国語指導

上浸水が続出しました。
床上浸水1千981戸
床下浸水1千146戸

このほか、昭和40年9月5日、大平地区で発生した竜巻は、およそ3万㎡に被害をもたらし、昭和52年2月13日から15日まで降り続いた雪は、測候所観測以来最高となる175cmに達し、市内全域の交通は完全に麻痺、その被害額は11億円近くに及びました。

これら、市に与えた甚大な被害は、多額の災害復旧費となって、市の財政に重くのしかかりました。

下北観光・地場産物の活性化

東京オリンピックが終わり、高度経済成長を背景として、余暇時間の増大、交通機関の整備、モーターゼーション等、生活環境にも大きな変化が見られるようになると同時に、人々の関心は、レジャーや観光へ向けられるようになっていきました。

しかし、当市を含め下北への観光客を呼ぶためには、第一に宿泊施設が足りないという致命的課題を抱えていました。ユース・ホステルのブームに乗り、『市営下北ユース・ホステル』を開館したのが昭和41年5月のことです。

そして、日本三大霊場『恐山』を中心とした自然豊かな『秘境下北』を観光の目玉に据え全国的なPRを展開し、昭和43年に『下北半島国定公園』に指定されたのを契機に、いよいよ下北半島の観光に大きな期待がかけられていきました。

昭和46年3月には、北海道立自然公園『恵

助手』の配置や情報化時代に対応したパーソナルコンピュータの市内全小中学校への導入など、21世紀を担う人づくりに向けて着々と基盤整備を進めてきており、『子どもは地域の、だからもの』の理念のもと、平成19年12月には『むつ市教育プラン』を策定し、児童生徒の健全育成・学力向上を図り、義務教育9年間という長期スパンの中で、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童生徒を育み、小中学校の連携を協力に推進していきます。

また、青少年だけに限らず、これからの高齢社会における生涯学習の活動拠点となる公民館を平成4年度に新築し、現在毎日のようにたくさんの方々が市民サークル、婦人学級あるいは町内会などに活用されています。

長い間市民から強い要望があった図書館は、子どもからお年寄りまで利用しやすいように平屋建てとし、情報化時代に対応した最新の施設を備えた図書館として、平成12年4月1日にオープンしました。

平成20年4月1日からは、『青森県立下北少年自然の家』が青森県から譲渡をうけ、宿泊型生涯学習施設『むつ市下北自然の家』として、市が管理・運営することとなり、子どもから高齢者まで幅広い



上野駅正面ホールで行われた下北半島祭り

山』と『恐山』とが、ともに霊場地であることを縁に姉妹観光地の調印をしています。

また、昭和46年4月から自衛隊の協力で供用開始された『釜臥山・恐山線観光道路』は、平成9年12月に全面舗装が完成し、翌年5月17日に『かまふせパノラマライン』として供用開始、『高野山』『比叡山』と並ぶ三大霊場『恐山』への参拝周回観光コースとして人気を集めています。釜臥山展望台から眼下に望むアゲハチョウを思わせる夜景は、人気の観光スポットとして多くの方を楽しませてくれています。

平成17年3月の新むつ市誕生により、面積は下北半島内の多くを占めることとなり、川内では湯野川温泉、川内川渓流、大畑では薬研温泉・溪流、脇野沢では天然記念物のニホンザルなど、自然満喫型観光のほか、地場産品を目玉にした観光や体験



整備が進む学校施設(大湊小学校)

い方々に利用できるようになりました。

一方、スポーツ施設の整備では、いち早く昭和44年に、野球場、陸上競技場、テニスコートを備えた総合運動公園をオープン、昭和51年には、市庁舎に隣接して『市民体育館』を建設、昭和56年には釜臥山スキー場に第2リフトを設置、スキー場ナイター設備の完成、野球場の改装など、市民が利用しやすい施設を完備しスポーツの振興を図ってきました。また、同年代れでも気軽に利用できる多目的広場を作り、老若男女多くの市民に利用され親しまれてきました。

特に、平成2年には陸上競技場を大改装し、第二種公認陸上競技場となり、数多くの選手がここから巣立っています。

要望の強かったテニスコートのナイター設備も平成5年に整備、平成11年にはクレーコートを人工芝に改め観覧席も利用しやすいように整備しました。

平成18年4月1日にはむつ市ウェルネスパーク（しもきた克雪ドーム）が完成し、さらに同年12月には釜臥山スキー場拡張整備事業が終了し、スノーボード専用コース（ファンパーク）とキッズパークが利用開始されました。今後も多くのみなさんが四季折々自由な楽しみ方ができるような施設に整備していきます。

ごみ・下水道・環境

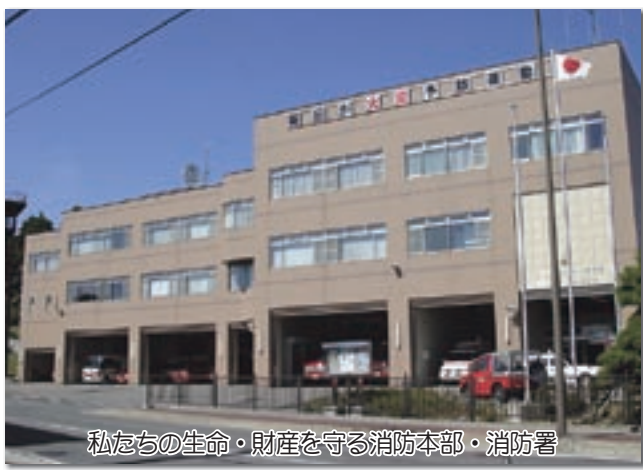
『ごみ処理』、『下水処理』は、市民生活に密接に関わっているとともに、『地球環境』にも多大な影響を及ぼします。

近年の大量生産・大量消費・大量廃棄

17年3月14日に、むつ市、川内町、大畑町及び脇野沢村が合併し、新「むつ市」が誕生したことにより、構成市町村が下北圏域1市1町3村となり、し尿処理のみ加入の上北郡の2町1村を加えた1市3町4村の構成となっています。

今後とも、構成市町村の一層の連携を図りながら、積極的に広域行政を推進することが必要となっています。

文化関係では、下北文化会館が、昭和60年10月28日にオープン、県内初の複合文化施設として建設『文化センター』、『コミュニティセンター』、『福祉センター』、『保健センター』、『視聴覚教育センター』および『児童科学センター』の6つの機能を備えた施設であり、圏域住民全体の交流の場として、かつ、文化、教育、福祉および保健等に関する活動を推進する各種団



型というこれまでの生活様式を改め、天然資源の消費を抑制し、環境負荷の低減を図る循環型社会を構築する必要があると認識されており、廃棄物の発生抑制や、再利用、再資源化など国を挙げて環境への負荷を低減する取り組みが進められています。

ごみ処理に関しては、市においても、循環型社会の形成を推進していく中で、ごみの減量化とリサイクルに取り組み、ごみの分別や資源ごみ集団回収等における市民のみなさまのご協力により、リサイクル率は県内第2位となっています。

また、新市となってから、課題となっていたごみの出し方の統一については、市内の各種団体から推薦された方々により構成された『むつ市廃棄物減量等推進審議会』からの答申を受け、平成21年4月から、むつ・川内・大畑・脇野沢各地区それぞれの特徴を生かしながら、ごみの出し方を見直し収集体制を統一しました。今後一層、循環型社会の構築に向けて、ごみの減量化とリサイクルを推進していきます。

次に早期実現を求められている下水道

生活レベルの向上に伴い、各家庭での水の使用量が年を追って増え続け、それに合わせて生活廃水も増えてきた結果、河川・海域での富栄養化汚染が顕著となり、公共用水域の水質保全を図るために下水道の整備が不可欠となりました。平成8年度から、厳しい財政状況のもと、下水道整備事業として管渠工事、下水道浄化センター進入路踏切拡幅工事、下水道浄化センター建設工事などを行い、平成

体等の研修と相互交流の場として、多くの方々に幅広く利用されており、平成21年度からは、施設の管理運営に民間の能力を活用しつつ、利便性の向上と経費の節減を図ること等を目的に指定管理者制度を導入しています。

消防関係では、消防本部・むつ消防署合同庁舎をはじめ大畑消防署、大湊消防署、川内消防分署及び脇野沢消防分署の1本部3署2分署に、消防ポンプ自動車、高規格救急自動車及び救助資機材等を配備、また、人的な面では、救急救命士の養成、青森県防災航空隊への隊員派遣等により高度の知識及び技術の習得に努め、防火・防災に対する啓蒙はもとより、地域住民の生命・財産の保護に日夜努力しています。

また、平成21年2月に青森県が運用開始したドクターヘリは、救急現場からの出動要請も可能で、救急救命士とドクターヘリとの連携により、さらなる救命効果が期待されています。

平成12年12月、一般廃棄物（ごみ）等処理施設（アクセス・グリーン）の設置及び管理に関する事務が新たに共同処理事務に加わり、抜本的なダイオキシン類の排出対策として、むつ市・下北地域一体で平成12年度から平成14年度の3カ年をもって一般廃棄物（ごみ）等処理施設（アクセス・グリーン）を建設、平成15年4月1日から稼働しています。この施設は、ごみを高温で溶融してダイオキシン類をはじめとした有害物質を極限まで低減することができるとともに、ごみ処理後には再利用



15年4月には下水道が一部供用開始となりました。その後、下水道整備区域を拡大し整備を進めるため、平成20年6月に認可区域を拡大しています。

地球環境問題に関しては、近年特に地球温暖化の阻止に対し、国民規模で対処していく施策を取ることが求められています。市では、平成20年3月に『むつ市地球温暖化対策推進実行計画』を策定し、市の事業において温室効果ガスの削減に取り組んでいるほか、河川環境を保全するための『家庭でできる生活排水対策』など身近な環境問題にも取り組んでおり、市民一人ひとりができることから始めることの大切さを理解し、実施していくための意識啓発活動をしてきました。そして、平成21年2月から『もったいない・あおもり県民運動』の一環として、市内では食品スーパーを中心

が可能な『資源』が排出され、さらに、ごみの持つエネルギーを利用して発電するガスエンジン発電設備も備えています。

また、し尿処理業務については、下北圏域1市1町3村に上北郡の2町1村を加えた1市3町4村で共同処理していますが、老朽化、処理能力の低下が進んでいた既存施設を、衛生面・環境面において適正な処理を図ること、し尿・浄化槽汚泥等をリサイクルし、資源循環型社会の構築に寄与することを目的に、平成15年度から平成18年度の4カ年をもってむつ衛生センター新施設（汚泥再生処理施設）を建設、平成19年4月1日から稼働しています。この施設は、従来の処理に加え、処理後の最終残留物をさらに脱水し、助燃剤を製造するための資源化設備を併せもった施設であり、隣接する一般廃棄物等処理施設『アクセス・グリーン』において活用しています。



知的障害児施設『はまゆり学園』は、昭和44年に開設し、下北圏域から入所が必要な18歳までの児童を対象に日常生活訓練を実施、知的障害者更生施設『しもきた療育園』は昭和55年に開設し、18歳以上の方を対象として保護するとともに、その更生に必要な支援および訓練を行なっています。現在これらの施設は、平成18

に5社の協力を得て、レジ袋の無料配布を中止して有料化、原材料資源・運送燃料の節約・二酸化炭素排出の抑制などにつながる事業を、市民みなさまのご理解とご協力を得て実施しています。

広域行政

昭和46年、むつ市を中核都市とする1市3町4村が『下北地域広域市町村圏』として自治省から圏域指定を受け、『恵まれた自然と調和のとれた活力、潤いに満ちた下北圏域の形成』をスローガンに、各種『広域行政』施策を進め、圏域内外との交流を図り、魅力ある圏域の発展に努めてきました。

医療関係では、昭和46年4月設立の一部事務組合下北医療センターの基幹病院でもあるむつ総合病院が青森県の自治体病院機能再編成計画において下北地域保健医療圏の中核病院に位置づけられ、圏域内で脳卒中、癌および心筋梗塞などの一般的な医療を完結させるため、むつ総合病院の医療機能の充実強化を図っています。

慢性的な医師不足のなかで、平成16年度には新医師臨床研修制度による臨床研修病院にも指定され研修医確保に成果を挙げているほか麻酔科、小児神経科など診療科目の拡充も図っています。

一方、川内、大畑、脇野沢の各診療所は1次医療機関として初期医療を担い、2次医療機関のむつ総合病院との機能分担・医療連携を図りながら、限られた医療資源の効率的活用を図っています。

下北地域広域行政事務組合では、平成

年4月1日から順次施行された障害者自立支援法により、『措置』から『契約』の時代へ移行したことにより、少子高齢化社会に向け福祉サービスを一元化し、『保護』から『自立』に向けた理念で運営・支援をしています。

電子計算センターは、昭和47年に下北圏域の1市3町4村により設置されました。税・国民年金・水道料金等の大量定型的事務の電算化を皮切りに、ホストコンピュータを順次レベルアップし、平成2年のカタカナから日本語漢字化処理の移行による住民記録・印鑑証明のシステム稼働、平成12年の介護保険システム稼働など時代時代の高度情報社会に即応したシステムの構築をしてきました。現在は、圏域の構成町村が単独処理へ移行したため、市単独で運営していますが、今後も各種データ処理の改善、プログラム開発のほか、市民みなさまへの行政情報的確な提供を支援する機能を維持していきます。



姉妹都市会津若松市との交流
年々盛んになるPA国際交流



士たちは全国に散りじりになってしまいましたが、ここには今なお多くの子孫が住み、市政・経済ほか多くの分野においてむつ市発展の大きな力となっています。このような特別の縁があつて結ばれた会津若松市との姉妹都市の絆は、さらに深く強固なものに発展していくことでしょう。

このほか、現在実施されている介護保険制度における『下北圏域介護認定審査会』や、障害者制度における『下北圏域障害者程度区分認定審査会』のように、制度の運用といったソフト的な領域において、下北圏域全体で対応する方がより現実的かつ効果的な広域行政施策に対応しています。

姉妹都市と国際交流

昭和59年9月23日、福島県会津若松市と当市間で姉妹都市の盟約がなされました。むつ市制施行25周年にあたるこの年、会津若松市は鶴ヶ城築城600年という記念すべき節目の時にあたりました。以来、今日までいろいろな形で相互の交流が図られ友好親善の輪が広がってきています。会津若松市と当市の関係は戊辰戦争に敗れ故郷を失った旧会津藩士とその家族1万7千人余が斗南の地に移住し、円通寺に藩庁を置き斗南藩を興した明治3年にさかのぼります。その後、廃藩置県で藩

また、インターネットをはじめとする通信メディアの世界的な普及は、各種分野に渡る情報の共有や相互理解が急速に進出し、国際交流が発展する時代となりました。市の国際交流の先駆けは、アメリカ西海岸のポート・エンジェルズ市からやってきた市民ミュージカル「ロゴス」公演で、民間交流がきっかけとなりました。平成7年には「田名部高校」と「ポート・エンジェルズ高校」とが姉妹高校の盟約を結び、その後さらに「むつ国際交流協会」と「ポート・エンジェルズ市半島国際交流協会」との間の姉妹団体締結に拡大していきました。これを契機に平成7年8月13日には、行政レベルでむつ市とポート・エンジェルズ市とが姉妹都市の盟約を結び、以来、中学生を対象としたジュニア大使派遣、修学旅行での訪問など、毎年いろいろな形で相互に交流し合うことで国際的視野を育む良い機会となつてきています。今後、国境の壁を越えて始まった国際

交流の輪が多方面でも進展していくことが期待されています。

原子力船「むつ」から海洋地球研究船「みらい」へ

海洋地球研究船「みらい」は、昭和44年6月12日に進水した日本最初の原子力船「むつ」が実験終了後大改装を施し生まれ変わったものです。

かつての原子力船「むつ」は昭和45年7月19日、東京からの太平洋処女航海を終え、大湊定係港へ入港。昭和47年8月25日原子炉が完成。紆余曲折を経て昭和49年8月26日午前0時に出港。実験開始後まもなく放射線漏れを生じたため帰港できず約50日間太平洋上を漂流。政府・県・市・漁業団体とで母港を大湊から移転する等と内容とする協定を締結し帰港。

その後、佐世保で遮蔽改修工事を行い、大湊定係港に回航。昭和63年1月27日完成した関根浜定係港に回航されました。平成2年3月29日に16年ぶりに臨界達成、同10月5日太平洋上で出力100%を達成し、平成3年2月14日船舶検査に合格、日本初の原子力船に。その後、沖ノ鳥島、ハワイ諸島、フィジー諸島など同12月12日まで4度の実験航海を実施。実験終了後解役となり、その後関根浜で船体を3つに切断、真ん中の原子炉部分を撤去した後、大改修を施し、世界最



多数の漁船が取り囲み出港を阻止



海洋地球研究船「みらい」

国際海洋科学研究の拠点都市へ

当市は、北は津軽海峡に、南は陸奥湾、西は平館海峡に面し、3つの異なる海域に接した地形となっており、明治35年の海軍水雷団設置以来、軍港として発展し、現在引き継がれている海上自衛隊大湊地方総監部や旧原子力船「むつ」の母港（大湊港、関根浜港）など海とのかかわりの中で発展してきました。

サイクル燃料備蓄センター「立地可能性調査を依頼」

- 平成12年12月 事業者から立地可能性調査の実施を回答
- 平成13年1月 事業者が日本原子力研究所関根浜港周辺地域の文献調査を開始
- 平成13年3月 事業者が市内に「むつ調査所」を開設
- 平成13年3月 むつ市議会が「調査特別委員会」を設置
- 平成13年4月 事業者が現地調査を開始
- 平成14年5月 事業者からの調査中間報告を受け、「地区別説明会」開催（市内17か所 5・21・6・15）
- 平成15年4月 事業者が立地可能性調査報告書を市に提出
- 平成15年4月 事業者が事業構想を公表
- 平成15年5月 「中間貯蔵施設に関する専門家会議」開催（4・16・5・21 計5回）
- 平成15年5月 「市民説明会」開催（市内4か所 5・31～6・1）
- 平成15年6月 市長がむつ市議会第176会定例会において誘致表明
- 平成15年7月 事業者へ立地要請



使用済燃料中間貯蔵施設完成予想図

○平成16年2月 事業者から市および青森県に対し「リサイクル燃料備蓄センター」の立地協力を要請

○平成17年10月19日 市および青森県が「リサイクル燃料備蓄センター」の立地を了承

市、青森県、東京電力（株）および日本原子力発電（株）との間で「使用済燃料中間貯蔵施設に関する協定書」に調印

平成12年8月31日の朝、地元紙の報道により、誘致構想は表面化し、その直後の9月定例市議会では、なぜ、報道されるまで秘密にしていたのか、安全性は、住民のコンセンサスは、中間貯蔵がそのまま貯蔵継続の可能性はないのか、などの新聞報道に関連した一般質問が相次ぎます。

これに対し、市長は「少子・高齢化社会を迎え、介護保険制度の充実促進、教育環境の整備および地方分権の推進、地域産業を基軸とした地域活性化、雇用機会の拡大など、多様化する市民ニーズにこたえていくために、恒久的財源の確保が重要課題と考え、誘致の可能性を打診してきた」と答えています。

その後、市長は、同年12月定例市議会の全員協議会において「東京電力（株）に対する立地可能性調査依頼」に関する報告をします。

市議会では、調査特別委員会を設置し、計15回にわたる委員会や先進地視察を行い、施設に対する理解を深めています。また、対市民レベルでは、事業者による立地可能性調査中間報告を受け、その内容について、市内17か所における地区別説明会や、事業構想に関する専門家の意見を聞くための計5回にわたる「専門家会議」、市内4か所の「市民説明会」を経て、平成15年6月定例市議会において、市長は「むつ市を含む下北地域の活性化に寄与し、ひいては、豊かな郷土づくりに貢献するところは大きいと確信している」として、誘致表明しました。

市町村合併後も、旧町村部を対象とした市民説明会を開催してコンセンサスの合意に努めました。

平成19年3月22日に使用済燃料貯蔵事業許可申請書を国へ提出し、平成24年の開始を目指しています。誘致による交付金の活用により、赤字解消計画に沿って、平成23年度での累積赤字からの脱却も見えています。

また、関連施設を活用した雇用機会の拡大や地域産業全体の活性化のための新たな取組に対する期待も膨らみます。

今後、施設と地域との共生は、不可欠です。「新生むつ市」の将来像として据える「人と自然が輝くやすらぎと活力の大地陸奥の国」を実現するための政策の大きな一つの柱として、むつ市民がむつ市民として、誰もが心豊かに、生き生きと暮らすための大きな原動力となることでしょう。

使用済燃料中間貯蔵施設

「誘致」の軌跡と「共生」の地域

まず、当時の杉山市長が市議会に対しての誘致表明を経て、協定書調印までの経緯をたどってみます。

○平成12年11月 市が事業者（東京電力（株））に対し、「リ

むつ市50年のあゆみ〈国内外の出来事〉

昭和34年

- 7・31 ◆『大湊小学校』円型校舎落成
- 9・1 ◆県内8番目の新市『大湊田名部市』として、田名部町と大湊町が合併し誕生
- 10・3 ◆初代市長に杉山勝雄氏当選
- 11・10 ◆『下北総合開発期成同盟会』発足

8千312人

昭和36年

- 2・ ◆財政再建準備団体の指定を受ける
- 5・31 ◆『むつ市集会所』竣工
- 9・1 ◆『むつ消防署庁舎』竣工
- 12・1 ◆『市公営企業局』発足

ソ連人工衛星打ち上げ成功

本原のプラジル移住119人青森を出発

※物価 ビール1本125円、理髪料199円

昭和37年

- 4・1 ◆『むつ中学校』栗山に創立
- 8・20 ◆『むつ市政だより』創刊
- 9・15 ◆『低開発地域工業開発地区』に市が指定を受ける
- 12・20 ◆『NHKむつテレビ』中継放送所『運用開始
- 12・27 ◆『新市庁舎』が金谷地内に完成

堀江謙一氏、小型ヨットで太平洋を単独横断

昭和38年

- 3・10 ◆県立養護老人ホーム『釜臥荘』設置

昭和39年

- 4・1 ◆『大平中学校』創立
- 4・5 ◆『むつ製鉄(株)』、『砂鉄原料(株)』設立
- 5・25 ◆じん芥焼却場開設
- 6・11 ◆むつ市田名部出身の映画監督川島雄三氏死去
- 9・20 ◆市長選挙で杉山勝雄氏再選
- 10・24 ◆大湊在住の彫刻家古藤正雄氏、『第5回県文化賞』受賞

アイバンク開業

伊藤博文の新千円札登場

下北地方豪雪により、国鉄大湊・大畑線全面ストップ

昭和40年

- 4・1 ◆市民の憩いの場として『早掛沼公園』開園
- 4・10 ◆県立むつ工業高等学校『開校
- 6・17 ◆『水中翼船』青森、川内、むつ間を1時間10分で結び1日3往復で営業開始
- 10・1 ◆東海道新幹線営業開始
- 10・10 ◆東京オリンピック開幕

昭和41年

- 4・ ◆『大瀬橋』竣工

昭和42年

- 8・8 ◆札幌医科大学付属病院で初の心臓移植手術を執行
- 10・17 ◆川端康成氏、『ノーベル文学賞』受賞
- 1・ ◆釜臥山スキー場にジャンプ台完成
- 2・17 ◆市立むつ病院が、『むつ総合病院』に改称
- 4・1 ◆大湊港が重要港湾に昇格
- 5・1 ◆一部事務組合『下北地方精神薄弱児施設組合』を設立、『はまゆり学園』開園
- 5・ ◆『新小川橋』新設
- 6・1 ◆『青森県立第二養護学校』はまゆり分校『開校
- 6・12 ◆日本初の原子力船『むつ』進水
- 6・21 ◆『むつ運動公園』運用開始
- 8・23 ◆『第24回県民体育大会』開催、むつ市総合優勝
- 9・1 ◆市制施行10周年記念式典挙行
- 10・9 ◆市長選挙で河野幸蔵氏再選
- 11・ ◆『むつはまなすライン』大間町まで全面舗装完成
- 1・18 ◆東大紛争安田講堂事件勃発
- 7・20 ◆アポロ11号、月面に着陸
- 8・19 ◆夏の甲子園三沢高校準優勝
- 4・23 ◆閣議で、『むつ製鉄の企業化』断念
- 5・1 ◆大湊地区の住居表示実施
- 5・ ◆むつ市地域防災計画『風水害等編』『地震編』『資料編』様式編『策定
- 8・31 ◆杉山勝雄市長死去
- 9・5 ◆大平地区に竜巻襲来、負傷者11名
- 9・19 ◆田名部川氾濫、住宅710戸浸水
- 10・1 ◆国勢調査実施、人口3万9千282人
- 10・20 ◆むつ市長選挙で河野幸蔵氏当選
- 12・7 ◆『関根浜漁業協同組合』設立
- 10・21 ◆朝永振一郎氏、『ノーベル物理学賞』受賞
- 1・13 ◆高松宮殿下来市(県中体連スキー大会)
- 4・1 ◆『むつはまなすライン』野辺地、函館国道279号に昇格
- 5・19 ◆『斗南丘陵落遺跡』発掘
- 7・19 ◆原子力船『むつ』母港に入港
- 10・1 ◆国勢調査実施、人口4万1千134人
- 11・14 ◆下北半島の野生ザルが『天然記念物』に指定される
- 3・14 ◆日本万国博覧会開催
- 3・31 ◆日航機『よび号』乗っ取り事件発生
- 5・6 ◆三浦雄一郎氏、『エヘレスト』滑降に成功
- ※物価 ビール1本132円、理髪料552円



じん芥焼却場が奥内地区に完成

昭和43年

- 2・4 ◆全日空ボーイング機羽田沖に墜落、133人死亡
- 4・4 ◆NHK『おはなはん』放送開始、大人気
- 2・4 ◆『アツギむつナイロン』操業開始
- 3・5 ◆『新田名部川』人工河川に11年を要して竣工
- 9・22 ◆『青森県合同庁舎』完成式
- 11・1 ◆県道『野辺地〜大畑』間完全舗装完成、『むつはまなすライン』と命名
- 11・22 ◆総理大臣、市へ原子力船母港設置を認可
- 12・5 ◆『むつ衛生センター』完成、試験操業開始
- 7・ ◆日本の人口1億人を超す
- 3・ ◆『下北観光(株)』設立
- ◆釜臥山、恐山間『観光道路』事業に着手
- 4・10 ◆『柳町保育所』開所
- 5・16 ◆十勝沖地震発生(M7.9)死者1名、負傷者16名
- 5・25 ◆むつ市・大畑町の住民が『大畑線廃止反対』のデモを田名部駅前広場で約1千200人が参加し開催、デモ行進



桜まつりで賑わう『早掛沼公園』

昭和44年

- 8・8 ◆『大湊線』復旧
- 7・19 ◆『下北半島国定公園』に指定
- 7・22 ◆『岩崎会館』開設
- 8・1 ◆救急車をむつ消防署に配置、救急業務開始
- 8・5 ◆田名部中学校プール竣工
- 8・21 ◆下北地方に集中豪雨、災害救助法適用、住宅1千472戸浸水
- 9・ ◆全国赤字ローカル線廃止勧告対象に大湊線も
- ◆大湊・大畑線廃止反対期成同盟会』結成
- 10・24 ◆『肉用牛繁殖育成センター』開設、下北へカナダ産肉用牛『ヘレフォード種』を導入
- 11・1 ◆国鉄『大畑線』復旧
- 6・26 ◆小笠原諸島、23年ぶりに日本へ復帰

昭和45年

- 1・ ◆釜臥山スキー場にジャンプ台完成
- 2・17 ◆市立むつ病院が、『むつ総合病院』に改称
- 4・1 ◆大湊港が重要港湾に昇格
- 5・1 ◆一部事務組合『下北地方精神薄弱児施設組合』を設立、『はまゆり学園』開園
- 5・ ◆『新小川橋』新設
- 6・1 ◆『青森県立第二養護学校』はまゆり分校『開校
- 6・12 ◆日本初の原子力船『むつ』進水
- 6・21 ◆『むつ運動公園』運用開始
- 8・23 ◆『第24回県民体育大会』開催、むつ市総合優勝
- 9・1 ◆市制施行10周年記念式典挙行
- 10・9 ◆市長選挙で河野幸蔵氏再選
- 11・ ◆『むつはまなすライン』大間町まで全面舗装完成
- 1・18 ◆東大紛争安田講堂事件勃発
- 7・20 ◆アポロ11号、月面に着陸
- 8・19 ◆夏の甲子園三沢高校準優勝

昭和46年

- 1・13 ◆高松宮殿下来市(県中体連スキー大会)
- 4・1 ◆『むつはまなすライン』野辺地、函館国道279号に昇格
- 5・19 ◆『斗南丘陵落遺跡』発掘
- 7・19 ◆原子力船『むつ』母港に入港
- 10・1 ◆国勢調査実施、人口4万1千134人
- 11・14 ◆下北半島の野生ザルが『天然記念物』に指定される
- 3・14 ◆日本万国博覧会開催
- 3・31 ◆日航機『よび号』乗っ取り事件発生
- 5・6 ◆三浦雄一郎氏、『エヘレスト』滑降に成功
- ※物価 ビール1本132円、理髪料552円

- 4・23 ◆閣議で、『むつ製鉄の企業化』断念
- 5・1 ◆大湊地区の住居表示実施
- 5・ ◆むつ市地域防災計画『風水害等編』『地震編』『資料編』様式編『策定
- 8・31 ◆杉山勝雄市長死去
- 9・5 ◆大平地区に竜巻襲来、負傷者11名
- 9・19 ◆田名部川氾濫、住宅710戸浸水
- 10・1 ◆国勢調査実施、人口3万9千282人
- 10・20 ◆むつ市長選挙で河野幸蔵氏当選
- 12・7 ◆『関根浜漁業協同組合』設立
- 10・21 ◆朝永振一郎氏、『ノーベル物理学賞』受賞
- 1・13 ◆高松宮殿下来市(県中体連スキー大会)
- 4・1 ◆『むつはまなすライン』野辺地、函館国道279号に昇格
- 5・19 ◆『斗南丘陵落遺跡』発掘
- 7・19 ◆原子力船『むつ』母港に入港
- 10・1 ◆国勢調査実施、人口4万1千134人
- 11・14 ◆下北半島の野生ザルが『天然記念物』に指定される
- 3・14 ◆日本万国博覧会開催
- 3・31 ◆日航機『よび号』乗っ取り事件発生
- 5・6 ◆三浦雄一郎氏、『エヘレスト』滑降に成功
- ※物価 ビール1本132円、理髪料552円



設立当時の下北医療センター

昭和47年

- 4・1 ◆農業構造改善事業を金谷沢、水川目地区で開始
- ◆『新町保育所』、『川守町保育所』開所
- 4・9 ◆県庁で市と厚木ナイロンの調印式、下北開発の第1弾として『アツギむつナイロン』発足
- 5・1 ◆市営『下北ユース・ホステル』開館
- 5・31 ◆一部事務組合『むつ地区環境整備組合』設立
- 6・29 ◆田名部川氾濫、住宅1千362戸浸水
- 7・21 ◆大湊小学校『プール』新設
- 12・11 ◆『むつ電報電話局新局舎』落成、ダイヤル式電話機開通
- 6・16 ◆秩父宮妃殿下来市(斗南藩百年祭に出席)
- 7・10 ◆『第一田名部小学校』校舎落成
- 11・23 ◆『勤労青少年ホーム』開館
- 7・1 ◆環境庁スタート

昭和48年

- 2・10 ◆大湊・大畑線管理所廃止
- 3・8 ◆『下北郡出稼者連絡協議会』発足
- 4・19 ◆『むつ原子力館』が下北埠頭に完成
- 6・1 ◆一部事務組合『下北地域広域行政事務組合』がむつ市、下北郡内町村により設立、『電子計算センター』開設



原子力船「むつ」地元漁民による出港阻止行動

12・24 ◆釜臥山スキー場に「スキーリフト」完成

〈1・24〉太平洋戦争生き残り元日本兵横井庄一氏、グアム島で発見

〈2・3〉札幌冬季オリンピック開幕

〈2・19〉連合赤軍、浅間山山荘事件 ※日中国交の正常化で、シンボルのパンダが大人気

昭和48年

3・20 ◆「城ヶ沢小学校」校舎完成

7・28 ◆「第24回県中体連」開催

9・24 ◆局地的豪雨による水害発生、住宅3千127戸浸水

9・30 ◆市長選挙で菊池渙治氏当選

〈2・14〉「円」変動相場制へ移行、円急騰

※石油ショックでトイレットペーパーパニック

昭和49年

3・30 ◆むつ共同高等職業訓練校「校舎完成」

4・14 ◆田名部高校の山口亨選手が第2回アジア卓球ジュニアシングルスで優勝

5・11 ◆田名部高等学校ボート部員遭難、部員3名死亡

8・25 ◆原子力船「むつ」反対漁民による出港阻止行動、翌26日午前0時過ぎに荒天の中出港

9・1 ◆原子力船「むつ」太平洋上で出力試験中、放射線漏れ

10・14 ◆原子力船「むつ」の定係港入港および定係港の撤去に関する合意協定書を取り交わす

10・16 ◆太平洋を漂流中の原子力船「むつ」出港以来約50日ぶりに母港に帰港

〈10・9〉佐藤栄作前首相にノーベル平和賞

〈10・14〉ミスタージャイアンツ長嶋茂雄選手引退

※物価 即席ラーメン50円、理髪料1千170円

昭和50年

3・ ◆田名部川潮止堰工事」完成

3・20 ◆関根中学校「プール」竣工

4・1 ◆市「老人憩の家」開設、平成3年1月4日に「福寿荘」と改称

◆むつ下田町間が「国道338号」へ昇格

6・16 ◆特別養護老人ホーム「みちのく荘」完成

6・18 ◆原子力船「むつ」の修理港引き受けを辻佐世保市長が表明

9・7 ◆「第二田名部小学校」校舎落成

10・1 ◆国勢調査実施、人口4万4千646人

11・1 ◆ごみの分別収集実施

12・6 ◆田名部高校卒・青山学院大の高山徳子選手が全日本卓球選手権ダブルスで優勝

〈3・10〉新幹線「東京」博多間開通

〈7・19〉沖縄国際海洋博覧会

昭和51年

3・30 ◆むつ市防災行政無線放送施設完成

3・31 ◆「肉用牛繁殖センター」廃止

◆「むつ市清掃センター」完成

4・1 ◆「青森県立むつ養護学校」に県立第二養護学校はまゆり分校が昇格

5・12 ◆「むつ市民体育館」完成

5・ ◆むつ市出身の伊藤周左工門氏がアフリカ大陸縦断1万7千kmの冒険旅行に成功

7・1 ◆「むつ市政だより」第100号発行

〈5・8〉植村直己氏、北極圏犬ぞり一人旅に成功

昭和52年

2・15 ◆むつ測候所開設以来の豪雪(積雪175cm)により、下北「円」マヒ状態、死者1名

9・4 ◆第32回国民体育大会「あすなる国体夏季大会」ボート競技開催

9・5 ◆皇太子御夫妻来市

9・25 ◆市長選挙で河野幸蔵氏当選

10・3 ◆第32回国民体育大会「あすなる国体秋季大会」バレーボール競技開催

〈7・14〉初の静止気象衛星「ひまわり」打ち上げ

〈9・3〉王貞治選手715号のホームラン、ペーブルースの記録を抜く

昭和53年

4・1 ◆「柳町連絡所」、大湊上町連絡所開設

◆「むつ市長期総合計画」策定

7・7 ◆大平小学校児童265名が食中毒

8・14 ◆田名部地区農免道路開通

10・11 ◆原子力船「むつ」修理のため佐世保へ回航



国体ボート競技を鑑みる皇太子御夫妻

11・9 ◆西通り地区に防災行政無線放送施設完成

〈7・1〉日本人の平均寿命、男72・69歳、女77・95歳で世界一の長寿国に

昭和54年

2・6 ◆「大湊・大畑線廃止反対」地域大会開催

4・1 ◆小川町保育所で「障害児保育事業」を開始

6・1 ◆「オーストラリア軍艦ヴァンパイア号」が大湊港に寄港

6・11 ◆川島雄三を偲ぶ会「映画監督川島雄三の碑」建立

7・20 ◆運輸省航海練習船「北斗丸」が市制施行20周年を記念して大湊港へ寄港

9・1 ◆市制施行20周年記念式典挙行

11・27 ◆「墓地公園」供用開始

〈1・13〉初の国立大共通一次テスト実施

昭和55年

〈6・28〉東京サミット開催 ※インベーダーゲームが爆発的な人気

3・ ◆「むつ市長期総合計画基本構想」策定

3・16 ◆「国鉄大湊・大畑線廃止反対地域大会」開催

4・1 ◆「大湊上町連絡所宇田分室」を芦崎会館内に開設

◆「精神薄弱者更生施設」しもきた療育園開設

◆「特別養護老人ホーム」恵光園開設

5・9 ◆田名部・大湊両生活学校が「むつ生活学校」として新スタート

6・27 ◆市史編さん委員会発足

8・31 ◆奥内・中野沢地区に簡易水道完成

9・22 ◆「冷害危機突破大会」開催

9・28 ◆「大湊中学校校舎」落成

10・1 ◆国勢調査実施、人口4万7千610人

12・ ◆「むつ市長期総合計画」策定

〈5・23〉黒澤明監督の「影武者」カン又映画祭でグランプリ

〈7・19〉モスクワオリンピック開幕 (日・米など67か国不参加)

昭和56年

1・1 ◆「水道料金加入金制度」を導入

4・1 ◆特別養護老人ホーム「桜木園」開設

4・30 ◆「国道338号」にむつ脇野沢く大間間が昇格

4・ ◆運動公園に「多目的広場」完成

5・1 ◆「むつ市学習センター」開設

9・1 ◆「むつ市市民憲章」制定

9・13 ◆「関根小学校」新校舎落成

9・27 ◆市長選挙で菊池渙治氏当選

10・ ◆雇用促進住宅2棟完成

11・ ◆樺山地区に簡易水道完成

12・20 ◆南通り地区など15地区に防災行政無線放送施設完成

◆釜臥山スキー場に第2リフト完成

〈3・2〉中国残留孤児47人初の正式来日

〈10・16〉北炭夕張でガス突出事故 93名死亡

昭和57年

4・10 ◆運動公園に「交通広場」オープン

4・ ◆むつ総合病院で「R1診療」を開始

5・3 ◆田名部川にサケ・マスの子稚魚100万尾を放流

7・7 ◆オーストラリア海軍バラマツタ号が大湊港に寄港

7・25 ◆「最花貝塚」発掘調査開始

8・10 ◆インターハイシングルスカルで清水晋治選手3連覇

8・13 ◆第一田名部小学校「プール」竣工

8・30 ◆原子力船「むつ」5者協定締結

9・6 ◆原子力船「むつ」3年11か月ぶりに大湊港へ帰港

11・12 ◆スペシャル五輪でしもきた療育園生、はまゆり学園児が大活躍。金メダル3、銀1、銅1を獲得

12・ ◆「むつ市国土利用計画」策定

〈6・23〉東北新幹線盛岡まで開業

〈7・23〉国際捕鯨委、商業捕鯨全面禁止案可決

〈12・23〉テレホンカード使用開始

昭和58年

2・14 ◆むつ総合病院に「CT装置」導入

4・1 ◆「大湊上町連絡所城ヶ沢分室」を城ヶ沢地区集会所に開設

4・28 ◆田名部高校卒・川崎製鉄千葉の宮木由美子選手が世界卓球選手権大会に出場

5・26 ◆日本海中部地震発生(M7.7)

8・21 ◆運動公園野球場新装オープン

9・5 ◆原子力船「むつ」新定係港に関わる漁業補償協定に調印

10・2 ◆「第1回陸奥湾一周駅伝競走大会」開催、むつ市チーム3位入賞

10・23 ◆若者の祭典「むつまさかり祭」開催

12・17 ◆釜臥山スキー場「ナイター」設備完成

〈5・26〉日本海中部地震(M7.7)

〈10・23〉世界柔道選手権で斎藤仁選手優勝

〈9・1〉大韓航空機が墜落され、269名行方不明



釜臥山が見守る自然豊かな墓地公園



交通マナーを学ぶ交通広場が運動公園に完成



交流促進と友好親善を誓い姉妹都市盟約締結

昭和59年

- 2・18 ◆ 気温むつマイナス22・4度、観測史上最低気温
- 5・30 ◆ 『第35回青森県植樹祭』むつ市墓地公園で開催
- 6・16 ◆ 市議会『第100回定例会』開会
- 9・23 ◆ 会津若松市との姉妹都市盟約締結
- 10・14 ◆ 『大平小学校』校舎落成
- 11・28 ◆ 下北全域が市外局番共通6桁の電話番号となる
- 〈3・18〉江崎グリコ事件発生
- 〈11・1〉新一万円札、五千円札、千円札発行
- 〈12・20〉電電公社民営化三法が成立

昭和60年

- 7・1 ◆ 国鉄大畑線が民間経営し、『下北交通大畑線』に
- 8・1 ◆ 『大湊ネプタ100周年記念式典』挙行
- 9・22 ◆ 市長選挙で杉山肅氏当選
- 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口4万9千292人
- 10・28 ◆ 『下北文化会館』開館
- 12・15 ◆ 勤労者野外活動施設憩いの広場『かまふせビレッジ』オープン
- 12 ◆ 誘致企業杉山(株)操業開始、昭和63年8月社名を(株)セアンに変更
- 〈3・10〉青函トンネル本抗開通、着工から20年10か月
- 〈8・12〉日航ジャンボ機、群馬山中に墜落、520人死亡



下北の文化の殿堂『下北文化会館』

昭和61年

- 1・9 ◆ 『国立療養所大湊病院』が経営移譲の対象に
- 3・31 ◆ 下北半島が半島振興法による『半島振興対策実施地域』に指定
- 4・1 ◆ 『若生小学校』創立
- 7・13 ◆ 精神薄弱者施設『陽幸園』落成
- 8・17 ◆ 『第1回ミスおしまこコンテスト』開催、初代ミスおしまこに竹内幸子さん
- 9・27 ◆ 『第10回アジア大会自転車スプリント競技』で大平中卒・日体大の白井憲周選手優勝
- 10・1 ◆ 『青森県公民館大会』開催
- 10・6 ◆ 帆船『海王丸』大湊港に寄港
- 10・12 ◆ 『田名部中学校』校舎改築落成
- 11 ◆ 『全国伝統地名(旧国名)市町村連絡会議』を全国35市町村で結成
- 11・30 ◆ むつ市史『近代編』(明治・大正時代)発刊
- 12・30 ◆ むつ市史『民俗編』発刊
- 〈4・24〉アスパム(県観光物産館)オープン
- 〈4・28〉チエルノブイリ原発事故発生
- 〈11・21〉伊豆大島・三原山で200年ぶりの大噴火、島民1万余民が脱出

昭和62年

- 4・1 ◆ 市役所『部制』施行
- 5・24 ◆ 市民参加の植樹祭事業実施
- 6・22 ◆ 若生小学校前に金曲歩道橋完成
- 8・1 ◆ 『物故者物品焼却炉施設』完成
- 8 ◆ 誘致企業(株)エイワ青森工場操業開始
- 〈4・1〉JR東日本スタート
- 〈7・19〉新青森空港開港
- 1 ◆ 誘致企業『アーバン大野ソイニング(株)』青森むつ工場操業開始
- 1・27 ◆ 原子力船『むつ』関根浜新定係港へ回航
- 3・31 ◆ むつ市史『近世編』発刊
- 4・1 ◆ 『宇田運動広場』開設
- 4・28 ◆ 県道下北停車場線『下北橋』完成
- 10・9 ◆ 下北半島川島雄三映画祭開催
- 10 ◆ 『全国身障者スポーツ大会』で、橋本優選手50m背泳ぎで金メダル獲得
- 11・23 ◆ 『原子力資料棟(展示ホール)』関根浜にオープン
- 12・20 ◆ むつ市史『年表編』発刊
- 〈3・13〉青函トンネル『津軽海峡線』開業、青函連絡船80年の運

昭和63年

- 1 ◆ 誘致企業『アーバン大野ソイニング(株)』青森むつ工場操業開始
- 1・27 ◆ 原子力船『むつ』関根浜新定係港へ回航
- 3・31 ◆ むつ市史『近世編』発刊
- 4・1 ◆ 『宇田運動広場』開設
- 4・28 ◆ 県道下北停車場線『下北橋』完成
- 10・9 ◆ 下北半島川島雄三映画祭開催
- 10 ◆ 『全国身障者スポーツ大会』で、橋本優選手50m背泳ぎで金メダル獲得
- 11・23 ◆ 『原子力資料棟(展示ホール)』関根浜にオープン
- 12・20 ◆ むつ市史『年表編』発刊
- 〈3・13〉青函トンネル『津軽海峡線』開業、青函連絡船80年の運

昭和64年

- 〈7・9〉青函博開幕
- 〈1・7〉天皇陛下、崩御

平成元年

- 3・20 ◆ 鳥沢倶楽部が『下北の能舞』として国の重要無形民俗文化財に指定
- 3・31 ◆ むつ市史『自然編』発刊
- 4・1 ◆ 『下北地域広域行政事務組合』に2つの一部事務組合が統合して再スタート
- 4・10 ◆ 帆船『日本丸』が大湊港に寄港
- 9・1 ◆ 市の動植物『木・花・鳥』を制定
- ◆ 市制施行30周年記念式典挙行
- 10・8 ◆ 市長選挙で杉山肅氏が再選
- 11・3 ◆ 『第1回恐山往復駅伝競走大会』開催
- 〈1・8〉平成に改元
- 〈4・1〉『消費税』税率3%導入
- 〈11・9〉ベルリンの壁崩壊

平成2年

- 4・1 ◆ 印鑑登録証明事務オンライン化、住民票と共に即時発行化



数多くの選手が巣立った運動公園陸上競技場

- 6・2 ◆ 斗南藩土『上陸の碑』大平岸壁で除幕式
- 7・13 ◆ 原子力船『むつ』日本初の原子力航行を開始
- 8・19 ◆ 田名部駅前『来さまい橋』完成
- 8・30 ◆ 青森県総合防災訓練実施
- 9・3 ◆ ニシキヘビ騒動、9月7日捕獲
- 9・20 ◆ むつ運動公園に県内で2番目の『全天候型トラック陸上競技場』が完成し、日本陸上競技連盟第一種公認陸上競技場としてスタート
- 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口4万8千470人
- ◆ 社団法人『むつ市シルバー人材センター』設立
- 10・5 ◆ 原子力船『むつ』原子炉出力100パーセント達成

平成3年

- 1・4 ◆ 老人憩の家『緑寿荘』開設
- 1・23 ◆ 大湊地区の市道坂道10路線の愛称決定
- 2・5 ◆ 『イベント広場』完成
- 3 ◆ 『第3次むつ市長期総合計画』策定
- 4・28 ◆ 『NHKのど自慢』下北文化会館で開催
- 6・29 ◆ 『むつ中学校』校舎落成
- 8・10 ◆ 『第46回青森県民体育大会』むつ市で開催
- 10・1 ◆ 印鑑登録証磁気カード化
- 10・28 ◆ 『むつ国際交流協会』設立
- 12・12 ◆ 恐山休憩所完成
- 12・18 ◆ 誘致企業(株)むつ新鋭産業』操業開始
- 〈4・1〉県内46市町村スパイクタイヤ使用禁止に
- 〈6・3〉雲仙・普賢岳で大規模火砕流発生
- 〈9・28〉台風19号襲来、リンゴに大被害

平成4年

- 1・28 ◆ 小型ハイドガイド式口タリー除雪機5台購入

平成5年

- 2・1 ◆ 田名部郵便局が『むつ郵便局』に改称
- 2・14 ◆ 原子力船『むつ』実験航海終了
- 3・30 ◆ 地元三者、原子力船『むつ』の解設計画を了承
- 3・31 ◆ 『関根漁港』完成
- 5・1 ◆ 『むつ市一般廃棄物最終処分場』開設
- 5・15 ◆ 釜臥山展望台オープン
- 11・30 ◆ 『むつ市教育研修センター』開所式
- 12・21 ◆ 国の『下北合同庁舎』完成、業務開始
- 〈3・27〉六ヶ所ウラン濃縮工場操業開始
- 〈9・12〉毛利衛さん搭乗のスペースシャトル打ち上げ
- 2・1 ◆ 新『むつ市公民館』大湊浜町埋立地区に完成
- 3・18 ◆ 大湊線普通列車が冷暖气完備の新型気動車で快速化
- 3・25 ◆ 財団法人『むつ下北観光物産公社』設立
- 3・31 ◆ 『角違漁港』完成
- 4・1 ◆ 税オンラインシステム稼働
- ◆ むつ下北観光物産館『まさかりプラザ』開館
- 4・16 ◆ 水源地公園『旧海軍大湊要港部水源地堰堤』が県



北海道も眺望できる『釜臥山展望台』完成

平成6年

- 8・29 ◆ 『第1回ふれあい牧場まつり』開催
- 9・3 ◆ 『むつ市農作物被害対策本部』設置、この年の作況指数100
- 10・3 ◆ 市長選挙で杉山肅氏が三選
- 11・23 ◆ 『大平中学校』改築落成
- 〈6・9〉皇太子さまと雅子さま『結婚の儀』
- 〈9・15〉第1回県民駅伝競走大会が青森市で開催
- 〈12・9〉白神山地域世界自然遺産に登録
- 1・4 ◆ 老人憩の家『長寿荘』が関根地区に開設
- 3・23 ◆ 下北ユース・ホステル閉館

平成7年

- 4・1 ◆ 国民年金オンラインシステム稼働
- 7・9 ◆ むつ総合病院改築落成式、開業120周年記念式典
- 8・12 ◆ 気温むつ34・2度、観測史上最高気温
- 9・23 ◆ 局地的豪雨で多大な被害、住宅375戸浸水
- 10・21 ◆ 会津若松市との姉妹都市盟約締結10周年記念式典
- 11・24 ◆ 『平成6年度北方領土返還要求青森県大会』下北文化会館で開催
- 12・28 ◆ 三陸はるか沖地震(M7・5)、負傷者5名
- 〈6・27〉松本サリン事件



社会教育の殿堂『むつ市公民館』完成



市制施行40周年記念式典開催

- 7・27 ◆『市廃棄物減量等推進員』制度施行
- 8・14 ◆アメリカ合衆国『ポート・エンジェルズ市』においてむつ市と姉妹都市の盟約締結
- 9・1 ◆ごみ減量化スタート
- 10・1 ◆国勢調査実施、人口4万8千883人
- ◆『海洋科学技術センターむつ事務所』開設
- 10・18 ◆出戸地区から大畑町正津川に至るバイパス完成
- 11・1 ◆『むつ市行政改革大綱』策定
- 11・3 ◆市民・市出身者の学術文化活動の功績者に対し『第1回むつ市文化表彰』



第13回国際船舶運航者会議開催

- 1・17 ◆『むつ市公共下水道事業』着手
- 3・ ◆『第3次むつ市長期総合計画後期基本計画』策定
- 3・3 ◆市民・市出身者のスポーツ活動功績者、成績優秀者に対し、『第1回むつ市スポーツ表彰』
- 3・15 ◆むつ運動公園野球場に夜間照明完成
- 4・1 ◆『宇田川砂防公園』開園
- 5・29 ◆『太平洋海洋観測ブイネットワーク国際ワークショップ』開催
- 7・19 ◆下黒および内田地区ほか(吉生町・金曲・新町・桜木町)に住居表示実地会むつ市で開催
- 8・21 ◆第54回青森県民体育大会むつ市で開催
- 8・28 ◆市制施行40周年記念式典
- 9・1 ◆市営住宅緑町団地1号棟管理開始
- 9・10 ◆議員定数を26人から22人に削減
- 10・1 ◆介護保険制度の『要介護認定』受付開始
- 10・10 ◆仙台市の『シエクスピア・カンパニー』による『恐山の播磨』リハーサル公演行われる
- 10・12 ◆第13回国際船舶運航者会議開催
- 11・3 ◆濱谷一梅氏、第41回県文化賞受賞

- 1・11 ◆『緑寿荘』シルバークリーナむつ『落成記念祝賀会』
- 1・22 ◆津軽海峡文化交流『子ども歌舞伎フェスティバル』開催
- 2・ ◆移動図書館『ほほえみのデザイン』を決定
- 2・23 ◆第1回下北地区あすなろ交流会
- 2・26 ◆文化庁芸術祭演劇部門優秀賞

平成12年

- 1・11 ◆『大湊小学校改築落成式典および創立125周年記念式典』
- 11・15 ◆津軽海峡軸構想市町村協議会設立
- 11・16 ◆むつ市上水道管理センター新管理棟竣工式
- 11・21 ◆ラモス瑠偉選手による『サッカー教室』開催
- 12・1 ◆図書館(旧第二田名部小学校)閉館式
- 12・17 ◆『緑寿荘』シルバークリーナむつ『利用開始』
- 12・27 ◆むつ市『ジュニア大使』結団式
- 1・1 ◆欧州連合『ユーロ』通貨導入
- 4・1 ◆青森県立保健大学設立
- 7・19 ◆県スポーツ立県宣言
- 9・30 ◆茨城県東海村核燃料施設JOCで日本初臨界事故発生

- 4・2 ◆身体障害者施設『となみ療養園』開園式
- 4・24 ◆むつ市立図書館落成式
- 7・6 ◆城ヶ沢地区集落道・農道城ヶ沢くろ沢線完成
- 7・14 ◆『青森県高規格道路建設促進期成会』設立
- 7・28 ◆下北文化会館で全日本吹奏楽コンクール県大会開催、大平中が金賞で東北大会へ

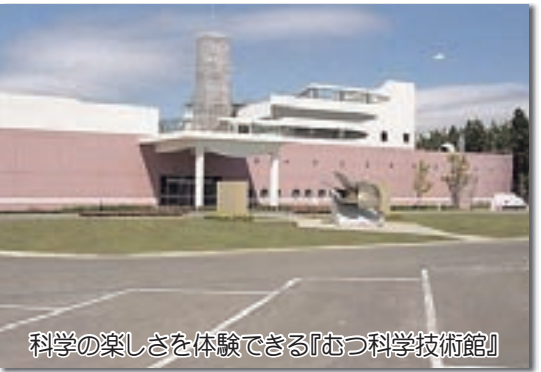


下北半島縦貫道路早期実現を目指して



新築のむつ市立図書館がオープン

- 3・8 ◆下北半島縦貫道路早期実現促進協議会設立
- 3・27 ◆市道関根水川目線完成
- 4・1 ◆新図書館オープン
- ◆ガラス瓶とペットボトルの回収スタート
- 7・31 ◆交通死亡事故ゼロ連続200日達成
- 9・9 ◆第10回県民文化祭シンポジウム
- 9・13 ◆国道338号むつバイパス開通式
- 9・18 ◆シドニーオリンピックボート競技に大湊高卒の吉田理子選手が2大会連続出場
- 10・1 ◆市営住宅緑町団地2号棟管理開始
- 10・10 ◆『むつ市政だより』第500号発行
- 10・15 ◆海洋科学技術センター『事務所』から『研究所』に昇格
- 11・ ◆東京電力株式会社に対しリサイクル燃料備蓄センター立地可能性調査



科学の楽しさを体験できる『むつ科学技術館』



電波に市民の夢と文化を乗せた『エフエムむつ』

- 1・17 ◆『むつ市公共下水道事業』着手
- 3・ ◆『第3次むつ市長期総合計画後期基本計画』策定
- 3・3 ◆市民・市出身者のスポーツ活動功績者、成績優秀者に対し、『第1回むつ市スポーツ表彰』
- 3・15 ◆むつ運動公園野球場に夜間照明完成
- 4・1 ◆『宇田川砂防公園』開園
- 5・29 ◆『太平洋海洋観測ブイネットワーク国際ワークショップ』開催
- 7・19 ◆アトランタオリンピック7・2クに田名部高卒の遊田紀子選手と大湊高卒の吉田理子氏がボート競技に出場
- 7・20 ◆『むつ科学技術館』オープン
- 8・21 ◆原子力船『むつ』大型海洋研究船に生まれ変わる『みらい』と命名
- 11・12 ◆『国際海洋科学シンポジウム』開催
- 12・25 ◆海洋科学技術センター『観測機材整備場』竣工
- 12・6 ◆原爆ドームと厳島神社が世界遺産に決定
- 12・17 ◆ペルー日本大使公邸ゲリラ襲撃

平成9年

- 4・1 ◆『大曲コミュニティセンター』開館
- 5・18 ◆『近川中学校』改築落成
- 10・1 ◆FMコミュニティ放送局『株』エフエムむつが北東北3県で初めて開局、愛称『FMアジュール』として24時間放送開始
- ◆『下北地方森林組合』として、むつ市森林組合、川内町森林組合、北通地方森林組合が広域合併
- 10・5 ◆市長選挙で杉山肅氏が四選

- 4・1 ◆『大曲コミュニティセンター』開館
- 5・18 ◆『近川中学校』改築落成
- 10・1 ◆FMコミュニティ放送局『株』エフエムむつが北東北3県で初めて開局、愛称『FMアジュール』として24時間放送開始
- ◆『下北地方森林組合』として、むつ市森林組合、川内町森林組合、北通地方森林組合が広域合併
- 10・5 ◆市長選挙で杉山肅氏が四選

平成10年

- 2・21 ◆『飛ぶんだビーターパン97』が平成9年度あおもり活性化大賞受賞
- 3・25 ◆『大平町保育所』改築落成
- 4・1 ◆市情報公開制度スタート
- ◆むつ市商工会(昭和35年発足)が『むつ商工会議所』に
- ◆『金谷公園』開園
- 7・22 ◆下北半島国定公園指定30周年
- 8・19 ◆『第31回全国昭和中長会総会』開催
- 8・24 ◆『国際海洋科学シンポジウム』開催
- 9・2 ◆市議会生中継放送を『FMアジュール』で開始
- 9・4 ◆青森県総合防災訓練実施

- 1・4 ◆住民票、印鑑証明書、転出証明書に改ざん防止用紙採用
- 1・22 ◆田名部まつり山車行事が青森県無形民族文化財に指定
- 2・7 ◆奥内歌舞伎『ザ・カブキ』が第4回活彩青森イメージアップ大賞受賞
- 2・14 ◆『活彩あおもりフォーラム』

平成11年



美しい景観の中を走る『かまふせパノラマライン』

- 10・1 ◆『はまなす農業協同組合』として、下北農業協同組合と協野沢村農業協同組合が合併
- 11・8 ◆『関根小学校体育館』完成、落成式挙行
- 11・ ◆長野オリンピック開幕
- 7・19 ◆『県文化観光立県宣言』



早掛レイクサイドヒルキャンプ場オープン

- 査を依頼
- 11・24 ◆ 前田地区排水路完成
 - 12・1 ◆ NTTむつ支店廃止
 - 5・24 ◆ 青森県武道館完成
 - 7・19 ◆ 新紙幣200円札発行
 - 8・1 ◆ 新五百円硬貨発行
 - 9・24 ◆ シドニーオリンピック女子マラソンで高橋尚子選手が金メダル
 - 10・10 ◆ 筑波大学名誉教授の白川英樹氏にノーベル化学賞
- 平成13年**
- 1・1 ◆ 紀元2001年初日
 - 1・20 ◆ 老人憩の家『福寿荘』増築落成祝賀会
 - 2・25 ◆ 青森県小学生剣道錬成大会むつ市スポーツ少年団少年剣道隊大湊養成会が優勝
 - 9・24 ◆ 『青森こどもの文化フェスタ2001』開催 下北文化会館
 - 9・30 ◆ 市長選挙で杉山肅氏が5選
 - 10・5 ◆ シヤガール『アレ』下北文化会館特別公開
 - 10・26 ◆ 第22回県高等学校総合文化祭、下北文化会館を主会場に開催
 - 11・17 ◆ 『むつ市民健康展』開催
 - ◆ 『旧大湊第一水源地堰』が近代土木遺産に認定・銘板贈呈式
 - ◆ むつ市子どもネプタ合同運行50周年記念式典
 - 11・27 ◆ 近川中学校PTA『日本PTA全国協議会会長表彰』受賞記念祝賀会
 - 12・1 ◆ 苦生小学校『PTA文部



『むつリハビリテーション病院』開院



県民駅伝総合6連覇を果たしたむつ市チーム

- 1・17 ◆ 『青い森地球エネルギーフォーラム2002』平沼経済産業大臣招いて開催
- 2・1 ◆ 市営住宅緑町団地3号棟管理開始
- 2・23 ◆ 『むつ市民グループ』まちづくり倶楽部が下北半島の市町村合併に関する討論会開催
- 3・ ◆ 『新・むつ市長期総合計画策定
- 3・1 ◆ 『むつリハビリテーション病院』開院式
- 3・31 ◆ 金谷沢小学校・中野沢小学校閉校
- 4・1 ◆ 県立大湊高校、中高一貫教育スタート
- 4・9 ◆ 関根小学校に『なかよし会』開設
- 1・17 ◆ 『青い森地球エネルギーフォーラム2002』平沼経済産業大臣招いて開催
- 2・1 ◆ 市営住宅緑町団地3号棟管理開始
- 2・23 ◆ 『むつ市民グループ』まちづくり倶楽部が下北半島の市町村合併に関する討論会開催
- 3・ ◆ 『新・むつ市長期総合計画策定
- 3・1 ◆ 『むつリハビリテーション病院』開院式
- 3・31 ◆ 金谷沢小学校・中野沢小学校閉校
- 4・1 ◆ 県立大湊高校、中高一貫教育スタート
- 4・9 ◆ 関根小学校に『なかよし会』開設
- 10・14 ◆ 大湊駅が東北の駅100選に選出
- 10・18 ◆ 『豪華客船』ばいびいづくびいなす』大湊港寄港
- 10・26 ◆ 『青森県男女共同参画県民フォーラム』むつ市公民館で開催
- 11・17 ◆ 全日本少年フットサル大会青森県大会でむつFC Jrが優勝
- 12・1 ◆ 大湊〜八戸間快速直通列車『しもきた』出発式
- 12・8 ◆ 『第2回ふるさと自慢わがまちCM大賞』でむつ



伝統ある奥内歌舞伎

- 12・11 ◆ 平成14年度電源立地促進対策交付金事業市道下北13号線(道路)整備
 - 4・1 ◆ 完全週五日制ゆとり教育スタート
 - 5・20 ◆ 東ティモール21世紀初の独立国
 - 5・31 ◆ 2002 FIFAワールドカップ日韓大会開幕
 - 10・8 ◆ 小柴昌俊東京大学名誉教授にノーベル物理学賞、田中耕一島津製作所社員にノーベル化学賞決定
 - 10・15 ◆ 北朝鮮に拉致された日本人5人帰国
 - 12・1 ◆ 東北新幹線盛岡駅〜八戸駅間延長開業
- 市が感動賞受賞、年間50本放送
- 12・11 ◆ 平成14年度電源立地促進対策交付金事業市道下北13号線(道路)整備
 - 4・1 ◆ 完全週五日制ゆとり教育スタート
 - 5・20 ◆ 東ティモール21世紀初の独立国
 - 5・31 ◆ 2002 FIFAワールドカップ日韓大会開幕
 - 10・8 ◆ 小柴昌俊東京大学名誉教授にノーベル物理学賞、田中耕一島津製作所社員にノーベル化学賞決定
 - 10・15 ◆ 北朝鮮に拉致された日本人5人帰国
 - 12・1 ◆ 東北新幹線盛岡駅〜八戸駅間延長開業
- 平成15年**
- 1・16 ◆ 『奥内歌舞伎』が市無形文化財(民俗)に指定
 - 2・3 ◆ 『除籍・改製原戸籍システム』稼働
 - 3・ ◆ 『むつみあいプラン』むつ市男女共同参画推進基本計画策定
 - 3・8 ◆ 関根保育所閉所式
 - 3・24 ◆ 1市4町3村でむつ下北地域任意合併協議会設置
 - 4・1 ◆ 下水道が一部供用開始
 - 4・3 ◆ 東京電力株式会社より、『リサイクル燃料備蓄センター』立地可能性調査報告書提出、建設は技術的に可能との判断
 - 6・26 ◆ 『リサイクル燃料備蓄センター』誘致表明
 - 6・30 ◆ 公共下水道通水式典
 - 7・18 ◆ 第30回東北総体ボート競技(新田名部川ボート場)開催
 - 8・22 ◆ 同総体フェンシング競技(市民体育館)で開催
 - 8・25 ◆ 住民基本台帳ネットワークシステム第2次サービス開始、住民基本台帳カードの交付
 - 10・13 ◆ 釜臥スキークラブが文部科学大臣表彰受賞
 - 10・31 ◆ 1市4町3村でむつ下北地域合併協議会設置

- 3・30 ◆ 準用河川明神川完成
- 3・31 ◆ 大畑線62年の歴史に幕
- 4・1 ◆ むつ市海老川コミュニティセンターオープン
- 4・28 ◆ 早掛レイクサイドヒルキャンプ場オープン
- 6・11 ◆ 映画監督川島雄三墓前祭
- 7・21 ◆ 第1回大湊海軍まつり
- 9・2 ◆ 第9回県民駅伝むつ市チーム市の部初優勝
- 9・23 ◆ クルーズ客船『ふじ丸』大湊寄港
- 9・24 ◆ 『青森こどもの文化フェスタ2001』開催 下北文化会館
- 9・30 ◆ 市長選挙で杉山肅氏が5選
- 10・5 ◆ シヤガール『アレ』下北文化会館特別公開
- 10・26 ◆ 第22回県高等学校総合文化祭、下北文化会館を主会場に開催
- 11・17 ◆ 『むつ市民健康展』開催
- ◆ 『旧大湊第一水源地堰』が近代土木遺産に認定・銘板贈呈式
- ◆ むつ市子どもネプタ合同運行50周年記念式典
- 11・27 ◆ 近川中学校PTA『日本PTA全国協議会会長表彰』受賞記念祝賀会
- 12・1 ◆ 苦生小学校『PTA文部

- 11・ ◆ 『むつ市保健計画』健康むつ21』策定
 - 11・1 ◆ 県立田名部高校衛生看護科閉科記念式典開催
 - 1・30 ◆ 第5回青森アジア冬季競走大会開催
 - 2・8 ◆ 『アメリカ・イギリスがイラク侵攻作戦開始、イラク戦争開始
 - 3・19 ◆ 宮崎駿監督『千と千尋の神隠し』が第75回アカデミー賞長編アニメ映画賞受賞
 - 4・1 ◆ 郵政事業庁が日本郵政公社に
- 平成16年**
- 1・29 ◆ 公的個人認証サービス運用開始
 - 2・8 ◆ 奥内小学校落成
 - 2・18 ◆ 東京電力株式会社から『リサイクル燃料備蓄センター』の立地協力要請
 - 3・ ◆ 『むつ市地域防災計画』原字力編』策定
 - 3・31 ◆ 田名部連絡所・大湊連絡所・川守町分室廃止
 - 6・29 ◆ むつ・川内・大畑・脇野沢合併協議会設置
 - 8・9 ◆ むつ市の夜景が日本夜景遺産夜景100選に選出
 - 10・ ◆ 『新市まちづくり計画』策定
 - 10・22 ◆ 合併協定調印式

- 11・ ◆ 『むつ市保健計画』健康むつ21』策定
- 11・1 ◆ 県立田名部高校衛生看護科閉科記念式典開催
- 1・30 ◆ 第5回青森アジア冬季競走大会開催
- 2・8 ◆ 『アメリカ・イギリスがイラク侵攻作戦開始、イラク戦争開始
- 3・19 ◆ 宮崎駿監督『千と千尋の神隠し』が第75回アカデミー賞長編アニメ映画賞受賞
- 4・1 ◆ 郵政事業庁が日本郵政公社に



新むつ市の門出を祝う、合併記念式典開催



季節を問わず楽しめる『むつ市ウェルネスパーク』



産業拠点施設『むつ来さまい館』オープン

平成18年

- 10・2 ◆市長選挙で杉山肅氏が6選
- 10・3 ◆脇野沢地域交流センターオープン
- 10・19 ◆使用済核燃中間貯蔵施設事業者からの立地協力要請を受諾
- 11・17 ◆むつ市原子力災害防災訓練実施
- 12 ◆『むつ市過疎地域自立促進計画』策定
- 〈2・16〉京都議定書発効
- 〈2・17〉中部国際空港が開港
- 〈3・25〉2005年日本国際博覧会(愛知万博)『愛・地球博』開幕
- 〈10・1〉インドネシア・バリ島同時爆弾テロ発生
- 〈11・25〉歌舞伎がユネスコ世界無形文化遺産に登録決定

- 2 ◆『むつ市地域新エネルギービジョン』策定
- 4・1 ◆ウェルネスパークとむつ来さまい館がオープン
- 6 ◆『新・むつ市保育再編計画』策定
- 8・30 ◆青森県総合防災訓練、大平岸壁・克雷ドームで実施
- 9・3 ◆第14回県民駅伝5年連続優勝
- 11・1 ◆むつ市共通商品券スタート
- 11・10 ◆むつ市女性模擬議会開催
- 12 ◆旧アークスプラザ土地・建物取得
- 12・16 ◆むつ市釜臥山スキー場拡張整備事業竣工

平成19年

- 〈3・3〉第1回ワールド・ベースボール・クラシック、日本優勝
- 〈7・5〉北朝鮮、テポドン2号など弾道ミサイル7発を日本海へ連射
- 〈12・30〉サッターム・フセイン元イラク大統領死刑執行
- 2・5 ◆戸籍電算化
- ◆第1回本庁舎移転基本計画審議会開催
- 3 ◆『むつ市公営住宅ストック総合活用計画』策定
- ◆『むつ市障害者計画および福祉計画』策定
- ◆『むつ市保健福祉計画』策定
- 3・26 ◆若生小学校バレーボール部全国大会出場
- 3・31 ◆柳町保育所開所
- 4 ◆『むつ市食育推進計画』策定
- 4・2 ◆防災メール配信サービス開始
- 5・30 ◆むつ市本庁舎移転基本計画策定
- 5・31 ◆杉山肅むつ市長逝去
- 6・27 ◆宇曾利ハイパス新橋の名称『水源池大橋』に決定
- 7・15 ◆市長選挙で宮下順一郎氏が当選
- 9・19 ◆むつ市総合防災訓練、川内地区で実施



日本一に輝いた大畑ミニバスケットボール少年団

- 10・7 ◆小目名小学校閉校式
- 10・28 ◆宿野部小学校閉校式
- 11・3 ◆関根橋小学校閉校式
- 11・4 ◆角違小・中学校閉校式
- 11・10 ◆蛸崎小学校閉校式
- 11・11 ◆鳥沢小学校閉校式
- 12 ◆『むつ市教育プラン』策定
- 〈1・1〉ブルガリア、ルーマニアがヨーロッパ連合加盟
- 〈2・5〉中国海洋調査船が尖閣諸島・魚釣島付近で無断海洋調査、中国は同諸島の領有権を主張
- 〈3・25〉能登半島でマグニチュード6.9の地震発生
- 〈4・16〉バジニア工科大学で、アメリカ史上最悪となる銃乱射事件発生
- 〈9・22〉スロベニアおもりに開催

平成20年

- 1 ◆『むつ市国民保護計画』策定
- 1・7 ◆市民課窓口業務午後6時30分まで延長
- 2 ◆大畑ミニバスケットボール少年団全国大会優勝
- 2・17 ◆松川小学校閉校式
- 3 ◆『むつ市長期総合計画』策定
- ◆『むつ市地球温暖化対策推進実行計画』策定
- 3・9 ◆第一川内保育所開所式
- 4・1 ◆青森県立下北少年自然の家を市が管理運営、社会教育施設『むつ市下北自然の家』として改組
- 4 ◆国道279号大畑桜並木の名前が『来さまい大』



万が一に備え、総合防災訓練実施



釜臥山の麓、新しく生まれ変わった北北駅

平成21年

- 9・6 ◆川内町出身の東峻選手が北京パラリンピック出場
- 9・25 ◆むつ市総合防災訓練、大畑地区で実施
- 11・6 ◆むつ市原子力防災訓練実施
- 8 ◆『ふるさと納税』制度が始まる
- 7・31 ◆大湊高等学校3年の岸本鷹幸選手が全国高等学校総合体育大会陸上競技400mハードル競技で優勝
- 5 ◆『むつ市水道ビジョン』策定
- 5・2 ◆むつ市下北自然の家開所記念式典挙行
- 4・25 ◆近代化産業遺産に『旧大湊ホテル』指定
- 〈1・2〉原油先物相場の急騰止まらず、7月半ばまで断続的に価格上昇
- 〈1・30〉中国製造の冷凍餃子や食材で、有毒成分メタミドホス検出
- 〈4・6月〉リンゴの凍霜害・雹害、県全体で約66億円、被害面積約8、200ヘクタール(県全体の35%)
- 〈5・26〉プロスキーヤー三浦雄一郎氏、日本人最高齢75歳7か月でチヨモランマ登頂
- 〈9・15〉アメリカの大手証券会社リーマン・ブラザーズ経営破綻、金融危機が世界的に拡大
- 〈11・4〉アメリカ合衆国大統領選挙で、バラック・オバマ氏が第44代アメリカ合衆国大統領に当選

- 1・5 ◆市公式ホームページをリニューアル
- 2・21 ◆JR大湊線下北駅前広場整備事業で新下北駅舎オープン式典
- 2・24 ◆下北自然の家『黒森山』を『遊々の森』として林野庁と協定締結
- 3・31 ◆『大畑診療所』128年の歴史に幕、医療法人章士会に

- 4・1 ◆本庁舎市民課に『窓口サービス専門員』制導入、7名配置
- 4・15 ◆『定額給付金』、『子育て応援特別手当』支給開始
- 4・20 ◆下北半島観光ポータルサイト『ぐるりんしもぎた』オープン
- 4・23 ◆北限のサル東京へ、天然記念物下北半島ニホンザル出発式
- 4・27 ◆定額給付金支給に伴う『プレミアム付共通商品券』販売開始
- ◆『むつ市の『花・木・鳥』公募開始
- 5 ◆『むつ市のうまいは日本一のイメージキャラクター』として『ムッシュ・ムチュラン』世を決定
- 5・31 ◆NHKの『ご自慢、下北文化会館』開催
- 6・9 ◆『むつ市議会』第200回定例会開催
- 7・7 ◆むつ市、新型インフルエンザ対策本部設置
- 7・28 ◆大湊高校野球部、全国高校野球選手権青森大会で準優勝
- 9・1 ◆『むつ市制施行50周年・合併50周年記念式典』開催
- ◆『むつ市の『花・木・鳥』制定

- 9・18 ◆現市本庁舎閉庁式(予定)
- 9・24 ◆新市本庁舎開庁式(予定)
- 〈2・24〉青森県果工偽装表示事件発覚
- 〈3・28〉全国高速道路ETC料金土・日・祝日千円に
- 〈4・5〉北朝鮮ミサイル発射、日本上空を通過し太平洋上に落下、日本、制裁措置を強化
- 〈4・24〉WHO、アメリカとメキシコで豚を起源とした新型インフルエンザ感染症確認
- 〈4・24〉WHO、アメリカとメキシコで豚を起源とした新型インフルエンザ感染症確認
- 〈7・22〉日本各地で46年ぶりの皆既日食を観測

◆市本庁舎は中央一丁目8番1号に移転し、平成21年9月24日から業務を開始(予定)します



旧川内町

大正6年
10・31 町制施行
◆初代町長に谷山成章氏
就任(第3代)

大正9年
10・1 国勢調査実施、人口1万
236人、世帯数2千
055戸

大正10年
2 大正鉱山銅価格暴落
で閉山
9・14 第4代町長に岡田小八
郎氏就任

大正14年
3 安部城鉱山閉山
3・26 第5代町長に坂部市太
郎氏就任

昭和2年
3 川内郵便局特設電話開通

昭和4年
◆大洪水のため浸水家屋
300余戸市中を発動機
船で往来

昭和5年
10・1 国勢調査実施、人口6千
972人

昭和8年
4・3 第6代町長に大類作太
郎氏就任

昭和10年
6・13 第7代町長に中村熊寿
氏就任

昭和11年
8 川内耕地整理完工受益
水田192ヘクタール
11・10 東北丸の上陸客を乗せ
た橋げたが転覆、7名
死亡

昭和15年
2・5 第8代町長に岡田彦一
氏就任
10・3 低気圧暴風雨のため、海
水による流出倒壊家屋30
戸、屋根破損家屋270
戸、漁船流出16隻



閉山前の安部城鉱山

昭和12年
11・10 第9代町長に工藤正輔
氏就任

昭和14年
9 川内橋(永久橋)完成
9・23 第10代町長に菊池亮氏
就任

昭和16年
4 川内警防団発足、団長
に菊池亮氏就任
4・28 第11代町長に高清水栄
助氏就任

昭和18年
9 下北省営自動車田名
部川内間が開通

昭和21年
6 小学校食糧不足のため
9日間臨時休校

昭和22年
4・5 第14代町長に斉藤才吉
氏就任

昭和25年
10 川内町国民健康保険組
合直営診療所開設

昭和30年
10・20 第13代町長に沢田惣之
助氏就任

昭和33年
6 川内小学校PTAを組織
10・1 国勢調査実施、人口8千
585人

昭和35年
11・16 第15代町長に瀬川惣兵
太氏就任

昭和37年
9・30 第16代町長に斉藤慶吉
氏就任
10・1 国勢調査実施、人口9千
391人

昭和39年
11 川内町国民健康保険直
営病院開設

昭和40年
10・1 国勢調査実施、人口9千
654人

昭和42年
4 川内町出稼者協会発足、
会員700名

昭和43年
5・16 十勝沖地震により商店
等に被害

昭和44年
7・1 エヒ子保育園開設
8 第一川内小学校(鉄
筋校舎)落成

昭和45年
11 県道「かもしかりン」
開通

昭和46年
10 消防庁舎(鉄骨)完成
◆第一川内小学校体育館
においてNHK民謡歳
時記公開録音

昭和47年
4・26 第19代町長に菊池十一
氏就任

昭和48年
9 国際交流事業開始、川内
中から5名が台湾訪問

昭和49年
5・1 川内勤労者体育セン
ター完成

昭和50年
12 下北初の「流雪溝」、銀
杏木地区に完成

昭和51年
1 町の花「あじさい」・鳥「ハ
クセキレイ」・木「ひば」
指定

昭和52年
4・18 特別養護老人ホーム「せ
らぎ荘」開設

昭和53年
1 野平道路開通

昭和54年
9 野平道路開通

昭和55年
4 川内中学校(統合校と
して開校)

昭和56年
7 川内高校新校舎へ移転

昭和57年
8 冷害発生

昭和58年
10・1 国勢調査実施、人口7千
890人

昭和59年
4 水没者のための損失補
償等で野平住民襲川移転

昭和60年
12 陶芸の家完成

昭和61年
3 養川公民館落成

昭和62年
7 川内川二度にわたり氾濫

昭和63年
4 川内公民館落成

昭和64年
10 川内川二度にわたり氾濫

昭和65年
7 川内公民館落成

昭和66年
4 川内公民館落成

昭和67年
10 川内公民館落成



昭和58年当時の商店街



現在のむつ市陶芸センター



昭和30年当時の校舎

- 昭和9年**
 - 5・1 ◆町制施行
 - 5・ ◆初代町長に森又四郎氏就任
- 昭和10年**
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口9千093人
 - 12・1 ◆『電信電話取扱所』開設
- 昭和11年**
 - 4・ ◆第2代町長に伊藤金治氏就任
- 昭和12年**
 - 12・ ◆第3代町長に佐藤虎次郎氏就任

旧大畑町

- 昭和14年**
 - 9・ ◆大畑漁港稀有のイカ大漁
 - 12・6 ◆国鉄『大畑線』開通
- 昭和15年**
 - 4・ ◆三階釜山をはじめ郡内各町村に釜山を操業し活発化
 - 8・28 ◆大暴風雨により、大畑橋流失
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口9千579人
- 昭和16年**
 - 4・ ◆第4代町長に笹沢善八氏就任
- 昭和17年**
 - 9・27 ◆『林道小目名橋』完成開通式挙行
- 昭和18年**
 - 7・20 ◆『正津川郵便局』開局
- 昭和19年**
 - 4・1 ◆『日本医療団大畑病院』開院
- 昭和20年**
 - ◆『役場庁舎』新築落成、庚申堂1番地から新町130番地へ移転
 - 8・15 ◆『新大畑橋』竣工、渡初式・祝宴は、天皇陛下の終戦に関する玉音が伝わり、

- 昭和21年**
 - 2・ ◆第5代町長に菊池桑吾氏就任
- 昭和22年**
 - 4・1 ◆『大畑中学校』開校
 - 4・ ◆第6代町長に大竹淳氏就任
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口1万1千139人
- 昭和23年**
 - 6・22 ◆大畑小学校を借用し『定時制高校』開校、入学者131名
- 昭和25年**
 - 2・ ◆第7代町長に菊池察明氏就任



湊内のイカ荷あげ風景

- 昭和27年**
 - 8・30 ◆『大畑町公民館』新築(現下北ハイヤー)落成式・開館式挙行
- 昭和28年**
 - 6・10 ◆葉研温泉地区『県立自然公園』に指定
- 昭和30年**
 - 4・12 ◆『正津川中学校』開校
 - 8・ ◆『八油工場』建設
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口1万3千566人
- 昭和33年**
 - 2・ ◆第8代町長に菊池桑吾氏就任
 - 11・ ◆『下大畑橋』完成
- 昭和34年**
 - 10・3 ◆木野部峠『新県道』開通
 - 11・14 ◆大畑港東防波堤灯台竣工、点灯
- 昭和35年**
 - 2・25 ◆国鉄『大湊・大畑線』に気動車が運行
 - 5・15 ◆『大畑漁業用海岸局(無線局)』開局
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口1万3千172人



昭和30年頃の大畑漁港



川内川溪谷遊歩道

- 平成3年**
 - 1・ ◆『石倉公民館』落成
 - 10・1 ◆廃止代替バス路線が川内く湯野川間で開通
 - 12・18 ◆『銀杏木橋』完成
 - ◆『銀杏木バイパス』完成
- 平成4年**
 - 4・29 ◆『川内川溪谷遊歩道』完成
 - 7・1 ◆川内町一般廃棄物最終処分場完成
 - 10・ ◆『北の川柳の町』をめざし、大滝小公園に川柳碑10基建立



野平高原交流センター

- 平成5年**
 - 3・ ◆『川内町ヒバハウス』完成
 - 9・1 ◆『野平高原交流センター』オープン
- 平成6年**
 - 9・3 ◆『川内ダム』完成
 - 5・25 ◆道の駅に『かわうち湖野平高原交流センター』が指定
- 平成7年**
 - 3・ ◆川内町出身ボクシング日本Jrミドル級チャンピオン上山仁選手、20連続防衛の日本新を樹立し引退
 - 4・1 ◆ふれあいスポーツパーク『川内球場』完成

- 平成8年**
 - 10・26 ◆『松川小学校新校舎』完成
- 平成9年**
 - 5・24 ◆『川内橋』完成
- 平成10年**
 - 4・1 ◆『川内町斎場』完成
 - 6・21 ◆川内中男子バレーボール部が下北中体連5連覇達成
- 平成11年**
 - 1・22 ◆川内八幡宮例大祭の『山車』が青森県民俗文化財に指定
 - 3・31 ◆『煙中学校』閉校
 - 7・30 ◆『川内町史』一部刊行
- 平成12年**
 - 3・31 ◆『煙小学校』、『湯野川小学校』閉校
 - 8・ ◆夏の甲子園大会で川内町出身の小濱巧聖選手・野里明人選手所属、青森県代表光星学院高へスト4進出
 - 10・1 ◆『川内町浄化センター』完成、公共下水道一部供用開始
 - ◆国勢調査実施、人口5千747人

- 平成13年**
 - 7・19 ◆『かわうちマリンスピーチ』一部完成
- 平成14年**
 - 10・1 ◆下北初『脳ドック検診』川内病院で開始
- 平成15年**
 - 3・26 ◆『川内町商工会館』完成
 - 3・31 ◆『戸沢小学校』閉校
 - 4・1 ◆『まちの駅かわうち』完成
 - 7・27 ◆『第26回青空フェスティバル』最後の町民大運動



かわうちマリンスピーチ

- 平成16年**
 - 5・7 ◆交通死亡事故ゼロ4000日達成
 - 8・1 ◆川内町役場『新庁舎』完成
- 平成17年**
 - 3・14 ◆むつ市・大畑町・脇野沢村と合併
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口5千117人



合併し、むつ市川内庁舎に

- 12・9 ◆『大畑町社会福祉協議会』結成
- 昭和51年
 - 4・8 ◆『大畑統合中学校』開校、スクールバスを正津川地区、佐助川地区に運行
 - 10・1 ◆『学校給食センター』完成、町内全小中学校が一斉に給食開始
 - 11 ◆『小目名生活改善センター』完成
- 昭和52年
 - 11・30 ◆『町営住宅』2棟外山地区に完成
- 昭和53年
 - 11・30 ◆木野部、関根橋に『生活改善センター』完成
- 昭和54年
 - 2・11 ◆北海道『標津町』と友好都市盟約締結
- 昭和55年
 - 4・1 ◆『県立下北少年自然の家』開所
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口1万2千328人
 - 12 ◆『滝沢地区にスキー場開設』
- 昭和56年
 - 4・7 ◆『大畑高校』独立昇格入学式挙行

- 昭和57年
 - 2 ◆『第11代町長に畑中一氏就任』
- 昭和58年
 - 11・20 ◆『大畑郵便局』完成、落成式挙行
- 昭和59年
 - 5・1 ◆町制施行50周年記念式典挙行
 - 8・23 ◆『大畑小学校』校舎完成、入学式挙行
- 昭和60年
 - 2・28 ◆大畑小学校『体育館』完成
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口1万1千708人
 - 12・20 ◆『浄水場移転事業』完了、滝沢から小目名赤坂地区へ



元気な子どもたちが集う中島児童館

- 昭和61年
 - 8・10 ◆『特産物活性化センター』完成、商工会事務局が同センターに移転
- 昭和62年
 - 3・27 ◆『清掃センター』ごみ焼却場』完成
 - 7・31 ◆『国道279号大畑バイパス』開通
- 平成2年
 - 3・11 ◆『正津川小学校』総ヒバ造り新校舎完成
 - 9・26 ◆都市計画道路『3・3・1号上野線』完成
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口1万084人
- 平成5年
 - 3・24 ◆『一般廃棄物最終処分場』完成
 - 10 ◆『第12代町長に川端一義氏就任』
- 平成6年
 - 3・20 ◆『二枚橋小学校』新校舎完成
 - 3・24 ◆『大畑町斎場』完成
 - 5・1 ◆『町民プール』完成
- 平成7年
 - 3・31 ◆『中島児童館』完成
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口9千874人



開通した国道279号大畑バイパス



合併し、むつ市大畑庁舎に

- 昭和36年
 - 12・27 ◆『大畑町上水道』認可
- 昭和37年
 - 8・27 ◆『消防庁舎』新築落成
 - 9・1 ◆上水道工事着工
- 昭和38年
 - 9・1 ◆『薬研間定期バス運行開始』
 - 11・1 ◆町章制定
 - 12 ◆『農業気象観測所』設置
- 昭和39年
 - 5・30 ◆『上水道』竣工
 - 11・22 ◆『魚獲物共同荷捌所』落成式挙行
 - 12・4 ◆『大畑町塵芥焼却場』完成
- 昭和40年
 - 3・31 ◆『青森県水産試験場大畑分場』廃止



昭和30年代の繁華街、新町通り

- 昭和41年
 - 2 ◆『第9代町長に村田幸次郎氏就任』
 - 3・30 ◆都市計画事業、新町植医院、本町松本商店間町道整備
 - 4・1 ◆『東北大学考古学教室』二枚橋遺跡』発掘
 - 5・10 ◆『中島児童館』開館
- 昭和42年
 - 5・20 ◆『広報』『おおはた』創刊号発行
 - 6・7 ◆『大畑農業協同組合』設立
 - 12・1 ◆『町立大畑病院』新築完成



昭和30年代の湊内イカ釣り船

- 昭和43年
 - 3・31 ◆中島児童館前庭に『児童公園』完成
 - 5・16 ◆十勝沖地震発生（M7.9）、国鉄大畑線の不通等被害甚大
 - 7・22 ◆『下北半島国定公園』に指定
 - 10・30 ◆『正津川児童館』完成
- 昭和44年
 - 8・24 ◆台風九号により上大畑橋流失
 - 9・15 ◆台風九号により山車の合同運行を中止
 - 12・30 ◆『大畑中央公民館』、『町民体育館』完成
- 昭和45年
 - 2 ◆『第10代町長に佐藤正太郎氏就任』
 - 4・1 ◆『県道むつ大間線』、『国道279号線』に昇格
 - 9・30 ◆『大畑町民憲章』制定
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口1万2千867人
- 昭和46年
 - 3・23 ◆『薬研温泉郷』、『国民保養温泉地』に指定
 - 4・1 ◆『一部事務組合下北医療センター』発足
 - 6・5 ◆『上大畑橋』完成式挙行



町民体育館と大畑中央公民館が完成

- 昭和47年
 - 11 ◆『宮浦墓地』関根橋間『関根橋免道路』完成
 - 12・20 ◆『正津川地区公民館』完成
- 昭和48年
 - 1・10 ◆『有線放送施設』完成
 - 3・7 ◆大畑消防署に救急車配置
 - 6・29 ◆『薬研地区』、『国設野営場』開設
- 昭和49年
 - 3・27 ◆小目名『ひばの子森林警備隊』消防庁長官賞受賞
 - 5・12 ◆下北初の『歩行者天国』実施
 - 11・20 ◆『二枚橋地区公民館』完成
 - 11・22 ◆大畑町都市計画街路決定
- 昭和50年
 - 4・4 ◆『中央保育所』完成
 - 5・10 ◆『孫次郎間分館』完成
 - 11 ◆『赤川へき地保健福祉館』完成



『県立自然公園』に指定された薬研温泉郷

- 昭和51年
 - 9・1 ◆第4次『大畑漁港』修築事業、『大畑町魚市場』竣工祝賀式挙行
 - 10・10 ◆5次漁港修築事業起工式挙行

旧脇野沢村

季節分校」開設

明治25年

明治22年

4・1 ◆町村制施行、『脇野沢村』として脇野沢村と小沢村が合併

6・14 ◆村役場を現在の悦心院前に設置、初代村長に遠藤輔氏就任

明治23年

12 ◆戸数270戸、人口1千762人

◆鱈の漁獲量17万9千貫

◆九艘泊で、鱈の建網の部落経営開始

明治24年

4・9 ◆『脇野沢尋常小学校蛸田



村制施行当時の役場

大湊間の定期航路を蒸気船で開設

明治32年

10・7 ◆脇野沢に74.5mmの豪雨、稲の流失などで被害

明治33年

◆本村に赤痢が蔓延、42人の患者が発生
◆脇野沢郵便局で小包郵便を取り扱う

明治34年

4 ◆滝山分教室を『脇野沢尋常高等小学校滝山分教室』と改称

明治35年

3 ◆小沢尋常高等小学校、寄付金700円をもって稲平に校地を移転、9月に校舎完成

明治36年

4・28 ◆『脇野沢村漁業組合』設立

明治37年

◆日露戦争（明治38年）脇野沢村から10人が従軍、戦死者5人をだす

明治38年

◆陸奥湾航路に『陸奥丸』（100トン）、大湊と青森間を一日一往復で就航

明治41年

2 ◆第4代村長に村木謙造氏就任

4・1 ◆九艘泊分教室、『脇野沢尋常高等小学校九艘泊分教室』と改称

明治42年

11 ◆第5代村長に相馬肅一郎氏就任

12 ◆『滝山小学校』滝山に新築

明治43年

4・6 ◆本村港町で出火、37戸が焼失
◆『在郷軍人会脇野沢分会』会員約170人で結成

明治44年

1 ◆この年より、大正3年頃まで鱈漁が不振、漁師の生活困窮により、税金滞納で差押多数

3 ◆第6代村長に吉川吉三氏就任

4・6 ◆本村で出火、39戸が焼失

大正元年

12月末 ◆戸数270戸、人口1千762人

大正3年

12月末 ◆戸数334戸、人口2千443人

大正4年

4 ◆『九艘泊分教室』校舎を新築

6・11 ◆第7代村長に山本聡氏就任

◆九艘泊の榑引岩男氏が猪口網を導入、イワシ定置網漁開始

大正6年

3・7 ◆第8代村長に寺山平吉氏就任

大正8年

2 ◆『脇野沢青年団・脇野沢村処女会』設置、脇野沢小学校内に事務所置く

4 ◆脇野沢尋常高等小学校に『実業補習学校』併設

大正10年

12月末 ◆戸数345戸、人口2千508人

大正10年

10 ◆『脇野沢公立消防団』を本村に組織

大正11年

1 ◆『脇野沢消防組』を組織
本村・小沢・瀬野・新井田に電灯設置、川内安部城鉱山水力発電より送電

大正12年

1・12 ◆下北の猿、『天然記念物』として保存決定

7・6 ◆第9代村長に佐藤熊次郎氏就任

大正13年

12・13 ◆本村の加藤喜代治氏が住宅新築中に、地中より『アイヌの腰刀』発見

大正14年

12月末 ◆戸数412戸、人口2千564人

大正15年

9・3 ◆田名部・大奥（大間町）・脇野沢に気象観測所設置

昭和2年

9・2 ◆第10代村長に川岸謙吉氏就任

11 ◆『小沢小学校』新校舎落成

昭和3年

9・30 ◆源藤城で出火、損害7千円

昭和5年

7 ◆『川内営林署脇野沢』に軌道を敷設

昭和6年

5 ◆小沢と九艘泊で、季節出稼ぎ対策として、消防団に『女子応援隊』発足

8 ◆下北初の自動車ポンプ設置

昭和8年

12 ◆鱈大々漁、水揚量250万尾以上、翌年2月にかけて、浦田部落からの脇野沢への出稼ぎ盛んに

昭和9年

4・18 ◆本村下町から出火、清水町・下町・本町・谷地町・上町・浜町の153戸を全焼する

昭和10年

10 ◆電話設置

昭和13年

12・15 ◆『脇野沢尋常高等小学校』校舎、木造2階建てで桂沢に新築

昭和14年

9・2 ◆第11代村長に高松勘次郎氏就任
◆小沢にガソリンポンプ1台購入

昭和17年

4 ◆川内と脇野沢間の道路が県道に昇格

昭和18年

9・15 ◆田名部と脇野沢間に国鉄バス開通

昭和19年

12・15 ◆鱈豊漁、1日15万尾の水揚げを記録、この年百万尾の水揚げを記録、鱈景気にわく全村民の寄付により、大日本帝国に海軍機を寄付

昭和20年

2・23 ◆第12代村長に大間吉郎氏就任

12月末 ◆戸数555戸、人口3千631人

昭和22年

4・7 ◆立候補選挙制の村民投票、第13代村長に川岸謙吉氏就任

10・27 ◆蛸田季節分校、通年制の『脇野沢小学校蛸田分校』に

◆滝山・源藤城・寄浪・蛸田・九艘泊に送電、電灯がつく

昭和23年

5・26 ◆第14代村長に川岸伝吉氏就任

昭和25年

7・15 ◆『県立大湊高等学校定時制課脇野沢分校』開校

4 ◆滝山分校、『村立滝山小学校』として独立

10・1 ◆国勢調査実施、人口4千583人

昭和26年

4・1 ◆九艘泊分校、『村立九艘泊小学校』として独立
◆脇野沢中学校小沢分校、『村立小沢中学校』として独立

11 ◆『脇野沢中学校』、瀬野川目に校舎新築

昭和27年

4・1 ◆脇野沢中学校九艘泊分校が『村立九艘泊中学校』、脇野沢中学校滝山分校が『村立滝山中学校』に

昭和28年

4・1 ◆旧脇野沢中学校校舎、『大湊高校脇野沢分校』の専用校舎に

昭和29年

4 ◆脇野沢中学校『体育館』落成

昭和30年

7・24 ◆下北駅伝で優勝

11 ◆『小沢小学校』新校舎落成

9・2 ◆第10代村長に川岸謙吉氏就任

昭和2年

9・3 ◆田名部・大奥（大間町）・脇野沢に気象観測所設置

大正15年

12月未 ◆戸数412戸、人口2千564人

大正14年

12月未 ◆戸数412戸、人口2千564人



発足した消防団『女子応援隊』



鱈漁大漁の水揚げ風景



イワシ船風景



蟹田～脇野沢間カーフェリー就航

- 9・27 ◆ 消防分署に救急車配置
◆ 村のシンボルといえる
鯛島の尾部が崩落
- 昭和55年**
 - 4・1 ◆ 行政連絡員設置
 - 4・10 ◆ 蟹田く脇野沢間、カーフェリー就航
 - 6・4 ◆ 田ノ頭地区で山火発生
 - 9・3 ◆ 第5分団、消防操法大会小型ポンプの部で優勝
 - 9・20 ◆ 『総合中学校校舎』完成
 - 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口3千739人
- 昭和56年**
 - 4・1 ◆ 『脇野沢中学校』として、脇野沢・小沢・滝山・九艘泊の4中学校が統合し完全給食スタート

- 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口3千486人
- 昭和60年**
 - 3 ◆ 七引地区にバンガロー5棟完成
 - ◆ 貝崎園地にバンガロー4棟完成
- 昭和61年**
 - 6・9 ◆ リフレッシュセンター『鱈の里』完成
- 昭和62年**
 - 7・12 ◆ 『夢の海中号』就航
 - ◆ 『木材工芸センター』完成
- 昭和63年**
 - 4 ◆ 『交流センター』落成
 - 6・23 ◆ 高速旅客船『ほくと』就航

- 2・19 ◆ 『いのししの館』落成
- 平成9年**
 - 1・18 ◆ 交通死亡事故ゼロ2千500日を達成
 - 7 ◆ 『焼き干しラーメン』販売開始
- 平成10年**
 - 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口3千019人
- 平成7年**
 - 3・31 ◆ 脇野沢幼稚園廃園
- 平成6年**
 - 5 ◆ 『水産加工センター』落成
 - ◆ 『マリンハウス』落成
 - ◆ 『猿の住む海辺公園』落成
- 平成4年**
 - 4 ◆ 『三収集業務を民間委託』滝山小学校創立百周年
- 平成2年**
 - 4 ◆ 『海づり公園』落成
 - 7・9 ◆ 第17代村長に山崎隆一氏就任
 - 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口3千202人



高速船『ほくと』就航

- 平成12年**
 - 2・1 ◆ 『脇野沢村高齢者福祉施設』業務委託開始
 - 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口2千775人
- 平成14年**
 - 4・1 ◆ 脇野沢村特別養護老人ホーム業務委託開始
- 平成15年**
 - 2・23 ◆ 九艘泊小学校閉校式
 - 3・2 ◆ 滝山小学校閉校式
 - 3・23 ◆ 小沢小学校閉校式



合併し、むつ市脇野沢庁舎に

- 平成16年**
 - 5・20 ◆ 『地域交流センター』建設開始
- 平成17年**
 - 3・6 ◆ 市町村合併により、閉村式挙行
 - 3・14 ◆ むつ市、川内町、大畑町と合併
 - 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口2千280人
- 平成12年**
 - 3・24 ◆ 『むつ下北地域任意合併協議会』に参加
 - 4・1 ◆ 『脇野沢統合小学校』開校

- 7 ◆ 村立小沢中学校『体育館兼講堂』新築落成
- 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口4千788人
- 昭和31年**
 - 4 ◆ 『国民健康保険事業』休止決定
 - 10・31 ◆ 防風高潮で床下浸水家屋25棟、道路決壊3か所
- 昭和32年**
 - 10・7 ◆ 豪雨で一時75・5mm、この頃から北海道への出稼ぎ続出
- 昭和34年**
 - 5・1 ◆ 第14代村長に山崎陸郎氏就任
 - 9・18 ◆ 台風14号で海岸が2mの高潮、住宅全半壊・流出216戸
- 昭和35年**
 - 1・25 ◆ 『脇野沢漁業協同組合婦人養殖研究会』結成
 - 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口4千742人
- 昭和36年**
 - 8・28 ◆ 砂利トラックが児童など25人を乗せて転覆、児童10人助手1人死亡、2人重傷

- 昭和37年**
 - 6・2 ◆ 『全戸バケツ運動』で男手不足の消防弱体化防止
 - 7 ◆ 『火葬場』完成
 - ◆ 人口が最高の5千158人に
- 昭和38年**
 - 9 ◆ 京都大学人類学グループ、『野猿調査』実施
- 昭和39年**
 - 3 ◆ 『脇野沢地区簡易水道施設』完成
 - 12・28 ◆ 九艘泊婦人会、野猿の餌付成功
- 昭和40年**
 - 3 ◆ 『小沢地区簡易水道』敷設
 - 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口4千689人
- 昭和41年**
 - 3 ◆ 『九艘泊地区簡易水道敷設』
 - 11・11 ◆ 九艘泊周辺の『野ザル』、国の文化財保護委員会が天然記念物指定申請
 - 12 ◆ 『脇野沢村隔離病舎』新築落成
- 昭和43年**
 - 7 ◆ 『塵介焼却場』完成、村内全域収集開始
 - 7・22 ◆ 『下北半島国定公園』に指定

- 9 ◆ 『脇野沢小学校』新築落成
- 昭和44年**
 - 5 ◆ 東北大学考古学調査団、瀬野地区で弥生時代前期のたて穴住居跡発見
 - 8・23 ◆ 台風9号により全村大被害
- 昭和45年**
 - 10・25 ◆ 小沢道路側溝工事中、木箱に入った大量の古銭発見
 - 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口4千205人
 - 11・11 ◆ 『北限の二ホンザル』、天然記念物に指定
 - ◆ 『新井田・寄浪・蛸田地』区簡易水道敷設



台風9号により全村大被害

- 昭和46年**
 - 12 ◆ 『有線放送施設』完成
 - ◆ 村章および村旗制定
- 昭和47年**
 - 7 ◆ 『下北地域広域行政事務組合脇野沢分署』発足
 - 11 ◆ 『役場』、『村民体育館』完成
- 昭和48年**
 - 3 ◆ 『小沢地区生活福祉センター』完成
- 昭和49年**
 - 4 ◆ 『脇野沢小学校創立百周年』
 - 8 ◆ 『脇野沢消防分署庁舎』落成



天然記念物に指定された北限の二ホンザル

- 昭和50年**
 - 6・25 ◆ 『下北海中公園』（鯛島・仏ヶ浦、自然環境保全審議会承認）
 - 8 ◆ 脇野沢農協、旧むつ市内に通学する高校生対象に農協運営無料通学バス運行
 - 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口3千873人
- 昭和51年**
 - 4 ◆ 脇野沢小学校に『脇野沢幼稚園』併設
 - ◆ 小沢小学校創立百周年
- 昭和52年**
 - 3 ◆ 『脇野沢診療所』新築落成
 - 8・6 ◆ 滝山小中学校『プール』完成
 - ◆ 『三焼却場』完成
- 昭和53年**
 - 10 ◆ 幻の県道大間く川内く脇野沢線完成、『海峡ライン』と命名
- 昭和54年**
 - 5・1 ◆ 第16代村長に浜田昭三氏就任

歴代

市長・副市長・助役・収入役



歴代議長

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間
初	菊池 渙治	昭34.10.29	昭38.2.7	3年3月
2	石田 金五郎	昭38.2.7	昭38.10.15	8月
3	石田 金五郎	昭38.10.23	昭40.11.5	2年
4	磯沼 静夫	昭40.11.5	昭42.10.15	1年11月
5	相坂 國松	昭42.10.27	昭46.3.1	3年4月
6	高橋 留次	昭46.3.1	昭46.10.15	7月
7	高橋 留次	昭46.10.22	昭50.10.15	3年11月
8	佐藤 鉄藏	昭50.10.23	昭53.10.2	2年11月
9	新田 仁太郎	昭53.10.2	昭54.10.15	1年
10	谷藤 勝夫	昭54.10.26	昭58.10.15	3年11月
11	近藤 光宣	昭58.10.24	昭62.10.15	3年11月
12	山本 光郎	昭62.10.26	平3.10.15	3年11月
13	新田 仁太郎	平3.10.28	平4.10.2	11月
14	富岡 正雄	平4.10.2	平6.9.19	1年11月
15	木村 亀治	平6.9.19	平7.10.15	1年
16	石澤 堅	平7.10.30	平10.6.12	2年7月
17	川下 八十美	平10.6.12	平11.10.15	1年4月
18	佐々木 肇	平11.10.21	平14.6.25	2年8月
19	川端 澄男	平14.6.25	平15.10.15	1年3月
20	宮下 順一郎	平15.10.28	平19.6.19	3年7月
21	川端 澄男	平19.6.19	平19.10.15	3月
22	村中 徹也	平19.10.30	現在	

歴代副議長

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間
初	瀬川 哲夫	昭34.10.29	昭38.10.15	3年11月
2	本山 清一	昭38.10.23	昭40.11.5	2年
3	越前 善次郎	昭40.11.5	昭42.10.15	1年11月
4	西口 才太郎	昭42.10.27	昭46.10.15	3年11月
5	佐々木 彌一	昭46.10.22	昭50.10.15	3年11月
6	新田 仁太郎	昭50.10.23	昭53.10.2	2年11月
7	谷藤 勝夫	昭53.10.2	昭54.10.15	1年
8	山本 光郎	昭54.10.26	昭58.10.15	3年11月
9	葛西 武	昭58.10.24	昭62.10.15	3年11月
10	鏡谷 勇	昭62.10.26	平3.10.15	3年11月
11	石澤 堅	平3.11.25	平6.9.19	2年9月
12	小林 正	平6.9.19	平7.10.15	1年
13	新谷 功	平7.10.30	平10.6.12	2年7月
14	川端 澄男	平10.6.12	平11.10.15	1年4月
15	菊池 一郎	平11.10.21	平14.3.14	2年4月
16	山上 幹雄	平14.3.14	平15.10.15	1年7月
17	山本 留義	平15.10.28	平19.10.15	3年11月
18	中村 正志	平19.10.30	現在	



歴代市長

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間
初	杉山 勝雄	昭34.10.3	昭38.10.2	4年
2	杉山 勝雄	昭38.10.3	昭40.8.31	1年10月
3	河野 幸藏	昭40.10.20	昭44.10.19	4年
4	河野 幸藏	昭44.10.20	昭48.10.19	4年
5	菊池 渙治	昭48.10.20	昭52.10.19	4年
6	河野 幸藏	昭52.10.20	昭56.10.19	4年
7	菊池 渙治	昭56.10.20	昭60.10.19	4年
8	杉山 肅	昭60.10.20	平元.10.19	4年
9	杉山 肅	平元.10.20	平5.10.19	4年

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間
10	杉山 肅	平5.10.20	平9.10.19	4年
11	杉山 肅	平9.10.20	平13.10.19	4年
12	杉山 肅	平13.10.20	平17.10.19	4年
13	杉山 肅	平17.10.20	平19.5.31	1年7月
14	宮下 順一郎	平19.7.15	現在	

歴代副市長

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間
初	田頭 肇	平19.4.1	平20.3.15	11月
2	野戸谷 秀樹	平20.3.25	現在	

歴代助役

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間
初	下川 速水	昭34.11.18	昭38.11.17	4年
2	下川 速水	昭38.11.18	昭42.11.17	4年
3	濱谷 一梅	昭42.11.30	昭46.11.29	4年
4	濱谷 一梅	昭46.11.30	昭48.10.12	1年10月
5	小野 肇	昭49.1.2	昭52.10.19	3年9月
6	菊池 二二男	昭52.12.1	昭56.10.19	3年10月
7	三浦 元直	昭57.4.26	昭60.10.19	3年5月
8	菊池 二二男	昭60.11.12	平元.11.11	4年
9	菊池 二二男	平元.11.12	平5.11.11	4年
10	二本柳 雅史	平5.11.12	平9.11.11	4年
11	二本柳 雅史	平9.11.12	平13.11.11	4年
12	相馬 努	平13.11.12	平16.2.29	2年3月
13	田頭 肇	平16.3.16	平19.3.31	3年

歴代収入役

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間
初	濱谷 一梅	昭38.12.16	昭42.11.29	3年11月
2	斎藤 正次	昭42.11.30	昭46.11.29	4年
3	斎藤 正次	昭46.11.30	昭50.11.29	4年
4	三浦 元直	昭50.12.1	昭52.10.19	1年10月
5	村田 清	昭52.12.1	昭56.10.19	3年10月
6	木村 藤四郎	昭57.4.26	昭60.10.19	3年5月
7	瀬川 素之	昭60.11.12	平元.11.11	4年
8	瀬川 素之	平元.11.12	平5.11.11	4年
9	瀬川 素之	平5.11.12	平9.11.11	4年
10	相馬 努	平9.11.12	平13.11.11	4年
11	田中 實	平13.11.12	平17.11.11	4年
12	田中 實	平17.11.12	平20.3.25	2年4月

むつ市の花・木・鳥 (平成21年9月1日制定)

◇むつ市の花『はまなす』

ハマナスはバラ科バラ属の落葉低木で、海岸線に力強く根を張り、夏にピンクや赤の鮮やかで美しい花を咲かせるとともに、香りも良い特徴的な花です。お盆には実に糸を通し数珠状にして飾られるなど、古くから地域の生活に溶け込み、市民に親しまれています。また、ハマナスのもつ可憐なイメージは、観光面などにおいて対外的なPR効果が期待されます。



◇むつ市の木『ひば』

ヒバはヒノキ科アスナロ属の常緑針葉樹で、青森ヒバとして、木曽ヒノキ、秋田スギと共に日本三大美林に数えられます。ヒバ材は、その高級感や材質の素晴らしさなどから、全国的に知名度が高く、古くは江戸時代から重要な資源として地域の発展に大きく寄与しているなど、地域との深く永い関わりのなかで、市民に親しまれ、愛着を持たれています。



◇むつ市の鳥『はくちょう』

ハクチョウはカモ科コブハクチョウ属に含まれる鳥の総称で、冬の到来とともに、海岸域をはじめ、湖沼や河川に数多く飛来します。水面(みなも)に泳ぐ姿は優雅で、大空に飛翔する様はまるで絵のように美しいことや、大湊湾の白鳥が青森県の天然記念物の指定を受けているなど、広く市民に親しまれ、愛されています。



◆むつ市の花・木・鳥イラスト作成 菊池時男氏



てっぺん下北
味・趣・覧
むつ星!

◆むつ市のうまいは日本一！イメージキャラクター
『ムッシュ・ムチュラン1世』

◆編集・発行

むつ市総務部広報広聴課 ☎0175-22-1111
〒035-8686 青森県むつ市金谷一丁目1番1号
✉ info@city.mutsu.lg.jp
🌐 <http://www.city.mutsu.lg.jp>

◆印刷

協同印刷工業株式会社

